週刊 YEAR BOOK

1928 昭和3年

日録20世紀

7|7

平成10年7月7日発行
(毎週1回発行)第2巻第25号
¥560
講談社

闇に葬られた「張作霖爆殺事件」の真相
空前の規模！昭和の「即位大礼」挙行
ディズニーの「ミッキーマウス」デビュー！

アムステルダム五輪で日本初の金！

◀7月28日〜8月12日の16日間にわたって開催された、アムステルダム五輪の大会ポスター。

▲不世出の〝天才アスリート〟人見絹枝。アムステルダムの銀メダルから3年後の昭和6年8月2日、講演旅行などの過労がたたり病没。24歳の若さだった。 朝日新聞社

◎表紙　昭和3年8月2日、アムステルダム大会の三段跳びで、日本に五輪史上初の金メダルをもたらした織田幹雄。 ユニフォトプレス

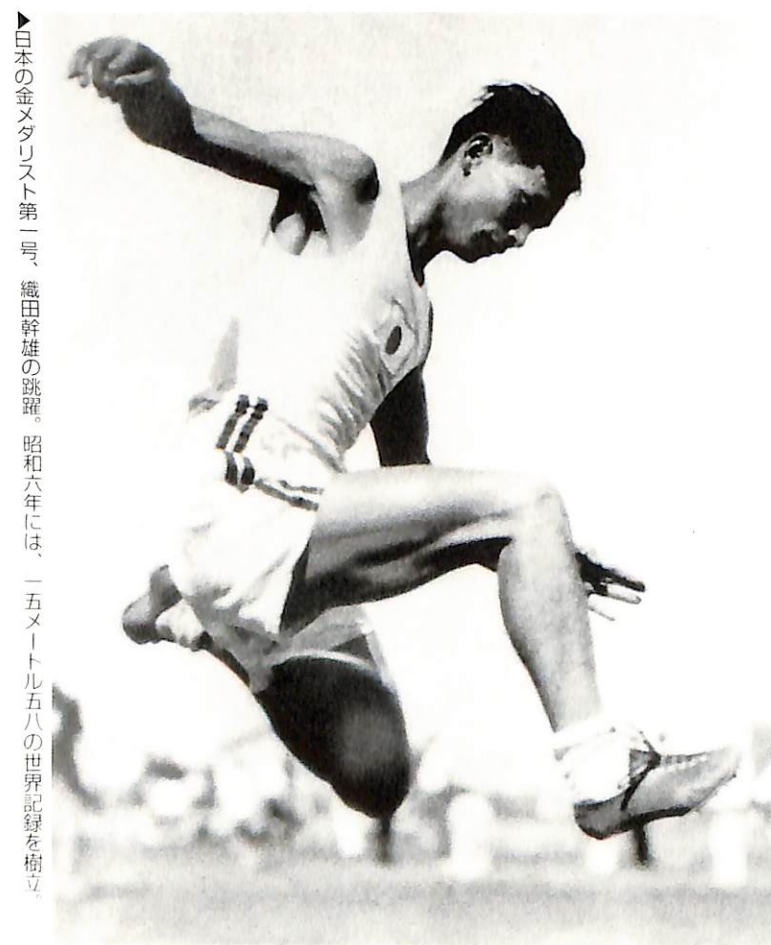
織田が跳び、鶴田が泳ぎ、人見が走った アムステルダム五輪のメインポールに日章旗 日本、参加一六年目で初の金メダル！

昭和三年夏、第九回アムステルダム・オリンピック大会──初参加した第五回ストックホルム大会から一六年にして、日本は初めて二つの金メダルを獲得した。それは、日本選手の優勝など予想もしていなかった世界のスポーツ界に対し、「アジアの日本」の存在をアピールした、記念すべき大会となったのである。

▲8月8日、水泳200メートル平泳ぎで、世界記録保持者のラデマッヘルを破り優勝した鶴田義行。 毎日新聞社（下1点とも）

織田幹雄、一五メートル二一センチ 有力選手をおさえ優勝

昭和三年八月二日、オランダの首都・アムステルダムの大会競技場メインポールに、オリンピック史上初の日章旗がひるがえった。

三段跳びで織田幹雄（二四＝早大）が、

▶日本の金メダリスト第一号、織田幹雄の跳躍。昭和六年には、一五メートル五八の世界記録を樹立。

織田が跳び、鶴田が泳ぎ、人見が走った
アムステルダム五輪のメインポールに日章旗

日本、参加16年目で初の金メダル!

▲7月28日、開会式の入場行進を行う日本の役員・選手団。選手団の先頭で、右手をあげて敬礼しているのが人見絹枝。人見は、日本女性として五輪初参加の名誉を担った。 朝日新聞社(下2点とも)

日本人として初の金メダル獲得という偉業を達成したのである。一人グラウンドの中央に立った織田の目には、涙があふれていた。

「前回のパリ大会で六位入賞をはたした後、次の大会ではいけるかもしれないと思いました。そこで、コーチもいないため、外国の雑誌などを取り寄せ、必死に勉強しながら独自の工夫を重ねました。しかし、まさか優勝するなどとは思っていませんでした。三位、あわよくば二位に入れればいいと、気楽な気持ちで試合にのぞんだのがよかった。有力な外国選手が不調だったことにも助けられましたが、気負ったり、緊張したら、けっして実力は発揮できません」

現在九三歳になる織田氏は、当時を振り返りながらこう語る。

この快挙がなしとげられた三段跳びの予選・決勝が行われたのは、大会六日目のことであった。それまで、日本の陸上陣は意外に振るわず、残る望みをこの種目に出場する織田と南部忠平(二五=早大)に賭けていた。

午後二時、競技が始まった。「助走路がこれまで闘ってきた数々のグラウンドより短く、多少あせった」(織田氏)が、体調は万全だった。織田は一回目、一五㍍一三㌢、二回目が一五㍍二一㌢と好調なスタートを切ったが、三回目はファウルでかかとを痛めてしまった。

決勝では足の痛みが響き、予選の記録におよばなかったが、不調な外国選手の跳躍を見ていた織田の胸には、「まさか」の思いがよぎっていた。案の定、世界記録保持者、オーストラリアのウィンター ら有力選手は、織田の記録を破れなかった。織田の優勝、そして南部の四位が確定したのである。

日本は金メダル二個と銀二個、銅一個を獲得

アムステルダムで開かれた第九回オリンピック大会は、四六カ国、三〇一五人の役員・選手が参加し、空前の盛況を呈した。開会式は七月二八日、アムステルダム南西部の海岸に新設された四万二〇〇〇人収容のオリンピック・スタジアムで行われた。

午後一時四五分、場外の広場で待機していた各国選手団が、オリンピック発祥の地、ギリシャを先頭にアルファベット順に、堂々の入場行進を開始。イタリアに続いた日本選手団は、国名標示板を持つ水泳の高石勝男(二二=早大)を先頭に、秩父宮から下賜された大日章旗を掲げる棒高飛びの中沢米太郎(二三=東京高等師範学校)、そして役員の嘉納治五郎大日本体育協会専務理事(六七)や選手ら五四人が、次々とグラウンドに姿を現した。選手団がメインスタンドに近づくと、日本人欧州観光団一行の万歳の声が湧き起こった。

「私は再び起こる万歳の声に、早くも両眼が熱くなり、ついにポタリポタリと熱い涙が落ちました。思えばこの涙こそ、大和魂からしぼり出されるものでなくてなんでありましょう」(『スパイクの跡』平凡社刊)

女子陸上競技八〇〇㍍で、日本人女性として初の銀メダルを獲得した二一歳の人見絹枝(大阪毎日新聞社員)は、後にこう記した。

織田の快挙に劣らず、人見絹枝の活躍も圧巻であった。人見は一〇〇㍍走に一二秒二という世界新記録をマークしての出場だったが、不運にも準決勝で落選。この予期せぬ屈辱を晴らすために急遽、一度も走ったことのない苛酷な八〇〇㍍に挑戦した。

決勝は三段跳びと同じ八月二日。人見は執念の力走を見せ、二分一七秒六という世界新記録をマークして二位、日本女子陸上界に金字塔を打ち立てた。

水泳陣の活躍も素晴らしかった。特に二〇〇㍍平泳ぎでは、鶴田義行(二五=報知社員)がドイツのラデマッヘルと激戦のすえ、二分四八秒八というオリンピック新記録で日本水泳界に初の金メダルをもたらした。結局、一〇〇㍍自由形の高石勝男の銅メダルを含め、日本はこの大会で、金メダル二個、銀二個、銅一個を獲得したのである。

「日本にとって、夢のまた夢であった国際大会での金メダル獲得は、アジアに日本あり、ということを強烈にアピールしました。東京・国立競技場のメインポールの高さは織田選手の偉業をたたえて、一五㍍二一㌢。三段跳びは、その後もロサンゼルス、ベルリンを制覇して日本のお家芸になるなど、この大会を契機にめざましい日本選手の活躍が始まったのです」

『白球太平洋を渡る』などの著書を持つ慶大法学部の池井優教授は、こう語るのである。

◀日本の陸上競技選手団。前列右二人目が人見絹枝。後列左二人目が南部忠平、三人目が織田幹雄。

▲日本の水泳競技選手団。前列右端が鶴田義行。中列中央に見えるのが高石勝男。高石は、100自由の銅、800リレーの銀と、2個のメダルを獲得した。

日本選手団"ユニフォーム物語"

大会入場式での各国のユニフォームは、何かと気にかかるもの。これまでのところ、ユニフォームは大きく二つに分類できる。ひとつはブレザーにスラックス、またはスカートといったベーシックな服装、もうひとつは民族衣装をアレンジしたもの。

さて、日本のファッションはどうか。アムステルダム大会では、水泳、陸上、ボクシングの選手らは、パリで仕立てた淡紺色の上着、真っ白なズボンで、麦わら帽。ボートの選手は、ロンドン製で上下同色の薄灰色、上着はエビ茶で縁どられていた。日本女性初参加の人見絹枝は、ロンドンで作った純白の上着の縁を赤でとり、真っ白なスカートといったいでたちだった。

その後、第16回メルボルン大会まではブレザーといえば紺ばかり。それが一転したのは第17回のローマ大会で、五輪ブレザーに取り組んできたテーラー・望月靖之さんがデザインした、白地に赤が縁取られた"ジャパン・ルック"だった。そして、1992年の第25回バルセロナ大会には森英恵デザインの"日の丸ユニフォーム"が登場。それはブレザーとスラックスが白で、ワイシャツの襟は赤、ネクタイは赤と白のストライプ、帽子に日の丸があしらわれていた。発表会で、モデルをつとめたシンクロナイズド・スイミングの小谷実可子は「着ていてウキウキする感じ」と賞賛したが、世間の評判は賛否両論であった。

▲大正9年、アントワープ大会。選手団の白いウールのジャケットは、その後国内でも流行した。

▲昭和7年、ロサンゼルス大会の水泳100自由の表彰式。紺のブレザーが、ユニフォームの定番に。

6月4日早暁、奉天で「満州某重大事件」勃発

張作霖爆殺！――闇に葬られた謀略の真相

▲事件の57年後に発見された、張作霖爆殺前後の現場を連続して撮影した写真（右上から左下へ）。爆薬と起爆装置は、満鉄線の陸橋下に仕掛けられていた。 山形新聞社

日本が不況の最中にあった昭和三年六月四日、満州（中国東北部）で、ある軍閥の支配者が爆殺された。真相は国民にあかされず、「満州某重大事件」とのみ呼ばれた。三年後に起きた「満州事変」の導火線となったこの事件の首謀者とされたのが、関東軍高級参謀の河本大作大佐である。うわ言で真相をもらすのをおそれ、盲腸の手術で麻酔を拒んだという、河本大佐が隠し続けた事実とは――。

◀全部で61枚あった連続写真（右ページ参照）のうちの1枚。午前7時頃、現地消防隊の消火活動がなお続けられていた。この後、現場検証が始まる。
山形新聞社

民間人の意外な証言から尻尾をつかまれた関東軍

中国の奉天（現・瀋陽）郊外にある満鉄線（南満州鉄道）と京奉線の交差地点に、数人の日本人が現れたのは、昭和三年六月三日の深夜だった。線路に爆薬と起爆装置を仕掛けた男たちは、電導コードを二〇〇㍍ほど離れた鉄道監視小屋に引いた後、夜の闇に姿を消したのである。

「ドッカーン」という爆音がしたのは、それから数時間たった、翌四日の午前五時二三分。コバルト色に塗られた装甲車両が、時速一〇㌔で問題の交差地点を通過した瞬間だった。列車には満州軍閥の支配者・張作霖（五三）が乗っていたが、貴賓車は吹っ飛んでバラバラ。奉天城内に運びこまれた張作霖は、第五夫人が応急手当に阿片液を吹きかけたものの、「かまわぬ。行くよ」とつぶやいた後、午前一〇時頃に息を引き取った。

満州に駐屯していた関東軍は六月一二日になって、「事件前の午前三時頃、現場近くで怪しい中国人二人を発見して射殺した。爆殺の犯人は、張作霖と対立していた蔣介石（四〇）の北閥軍に違いない」と発表。ところが、死体で見つかった中国人は、日本人が連れてきたという事実が、目撃証言から明らかになる。

「お手柄（?）は満鉄付属地で経営している邦人風呂屋の主人だった。彼は爆破のあった早朝、好奇心から現場に行ってビックリした。殺されていた中国人二人が、なんと前夜満州ゴロ（浪人）の安達隆成が連れて入浴させ、晴れ着を着せてやった男だからである。彼はすぐに関東庁警察へ事のしだいを、警察は、東京へと伝えた」（『日本歴史故事物語』）

爆死した張作霖は、貧農出身の元馬賊で日露戦争では双方に情報提供して成長。大正五年には奉天督軍兼省長に就任するなど、関東軍の支援のもとで満州の支配権を握った軍閥だった。田中義一内閣は、その張作霖と提携して満州・華北の統治政策を進めていたわけで、両者は〝ギブ・アンド・テイク〟の関係にあった。

田中首相（六三）の思惑とは別に、張作霖を苦々しく思っていたのが関東軍である。高まる排日運動を背景に〝対日依存〟から〝自立路線〟への転換をもくろんだ張作霖が、満鉄と並行する打通線などを敷設。不況の打開策と言われた満蒙（満州と内モンゴル）の〝特殊権益〟がおびやかされていたからだった。

そこで、爆殺の首謀者として登場したのが、関東軍高級参謀の河本大作陸軍大佐（四六）である（現場指揮は、独立守備隊中隊長の東宮鉄男大尉がとった）。

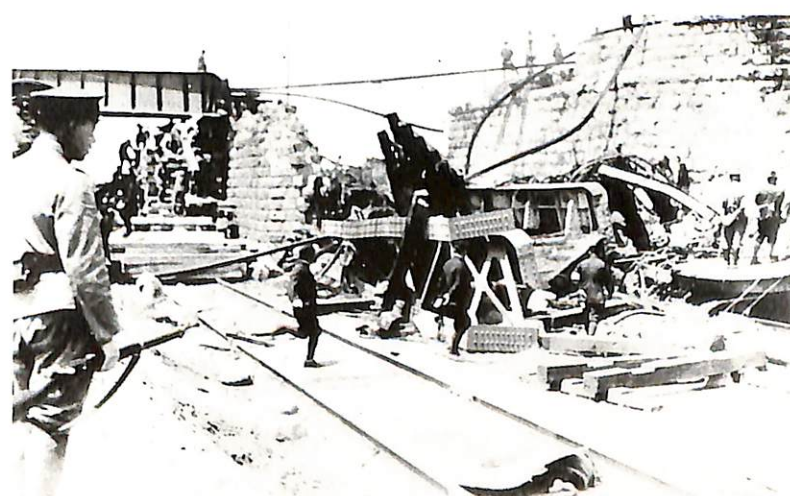
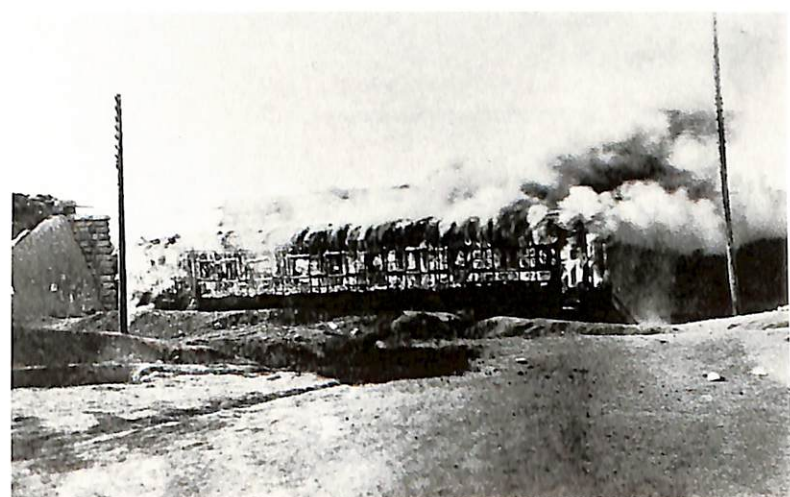
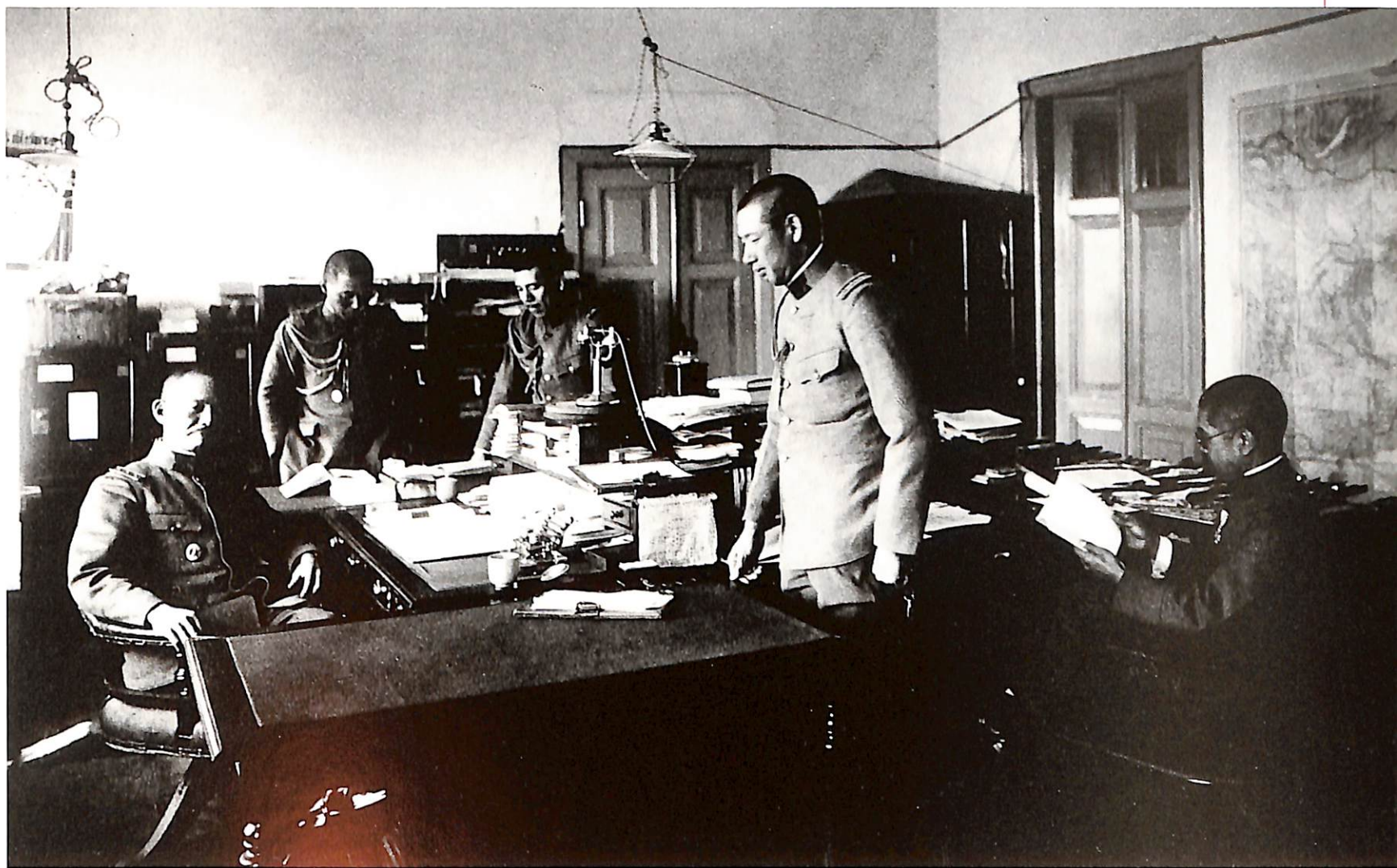
張作霖爆殺の動機については、河本の「手記」として発表された「文藝春秋」昭和二九年一二月号の「私が張作霖を殺した」に、次のように記されている。

▶張作霖は北伐軍に追われ、北京を棄てて奉天に引き上げる途中だった。

「（張作霖は）日本を駆逐して自己の軍閥勢力の伸長をはかり、私腹を肥やさんとするのみで、東洋永遠の平和をはかるという信念にもとづいていないことは明らかだった。張作霖が倒れれば、奉天派諸将はバラバラになる。巨頭を倒す以外に満州問題解決の鍵はないと感じた」

河本らの思惑は「爆殺後の治安の乱れに乗じて全満州を制圧」というもの。ところが、臧式毅奉天省長は、報復行動を起こせば関東軍の術中におちいると察知。奉天軍の決起をおさえたため、計画は頓挫することになる。

一参謀の個人的暴走か関東軍の組織的犯罪か

張作霖の爆殺は、内政にも影を落とした。事件後、野党・民政党の中野正剛などが陸軍と内閣の責任を追及し、昭和四年第五六議会は紛糾。特に陸軍は、真相公表に真っ向から反対した。結果、陸軍出身の田中首相は、「満州某重大事件」と呼ばれたこの事件を、陸軍の行政処分案という曖昧決着で締めくくることになる。当初、「軍法会議で厳然たる処分を

▲関東軍司令部で執務中の河本大作大佐（左端）。昭和5年に予備役となった後、政友会の森恪らの後援を受けた。　河本清子提供

いたします」と昭和天皇に報告していた田中首相は、一転して行政処分案を上奏。そのため「話が違う」と天皇に叱責され、昭和四年七月二日の内閣総辞職にも発展した。

こうして昭和四年七月一日、村岡長太郎関東軍司令官の予備役編入、河本の停職が発表された。とはいえ、処分理由は関東軍の警備ミスと説明されただけで、事件が——後の極東軍事裁判で田中隆吉元少将が「河本が主犯」と証言するまで——公になることはなかったのである。

「しかし、証拠もないため、あの大事件を参謀一人が計画しうるかをめぐり、戦後もさまざまな研究者が疑問を呈してきました。関東軍首脳部が関与していたんじゃないか、と。その謎の一端を解くのが、昭和二四年に河本を重要戦犯として取り調べた中国側の供述調書で、それが最近、中国の出版社から発表されたんです」

と語るのは、早稲田大学講師で日中関係史専攻の劉傑氏である。劉氏は、

「この『河本大作と日本軍の山西残留』という供述書で、河本は『事件は関東軍司令官の意図を汲んでやった』と発言。停職になったのは、『首謀者を誰にするかで関東軍司令官が悩んでいたので、自分が責任をかぶると申し出た』と証言しています。たしかに、村岡長太郎も暗殺計画を練っていて、爆殺が関東軍の総意だったのは間違いないでしょう。ただし、河本が責任転嫁のために証言したとも考えられ、すべて事実とは言いきれません」

と分析する。供述書にはこのほかにも、田中首相が張作霖の軍事顧問から賄賂を受け取っていた点などが証言されている。

ちなみに、停職後の河本は、満鉄理事や満州炭鉱理事長などを歴任。昭和六年の「満州事変」でも、裏工作に暗躍した（昭和二八年に山西省の太原収容所で病死）。

「張作霖爆殺事件」は、満蒙制圧の野望を抱く関東軍による「満州事変」の予行演習であったと同時に、関東軍強硬派を勢いづかせる契機にもなったのである。

▲爆殺現場の指揮をとった東宮鉄男大尉。後に「満州国」軍事顧問。　毎日新聞社

◀八月五日、奉天で挙行された張作霖の葬儀に参列した日本軍兵士たち。田中首相からも花環が供えられた。　山形新聞社

女たちの肖像

“我らのテナー”と出会い娘二人を捨てて逃避行！藤原あきの「恋」と「自立」

稲葉真弓

この年の九月、世間の話題をさらうセンセーショナルな事件が起きた。医学博士・宮下左右輔の前夫人・秋子（あき＝三一）が、恋人の世界的テナー歌手・藤原義江（二九）を追って単身イタリアへ脱出。一四歳と一二歳の二人の娘を捨てての“恋の逃避行”だった。あきは、同年一月すでに宮下博士と離婚していたが、子を持つ女が恋に走るのは言語道断といった風潮から、新聞は二人の関係を“情夫と情婦”“不義の恋人・藤原義江とあき”と書き立て、愛国団体、婦人団体までこの恋愛に抗議を申し入れるありさま。あきは、“姦婦”“不貞の妻”として社会から放逐されたのである。

後年、彼女は「かりに藤原義江と出会わなくても、誰かときっと恋をしていた。女性と生まれたからには、一度は燃えるような恋をしなければ、生きる価値がない」と語ったが、愛なき結婚をした彼女にとって、不毛の日々からの脱出は“恋”しかなかったとも言える。

あきは明治三〇年、三井財閥の大番頭、中上川彦次郎と愛妾・松永つねの間に生まれ、五歳の時、中上川家に引き取られた。才気煥発、美貌の少女は、わずか一六歳と一〇ヵ月で一四歳年上の大阪帝大医学部教授の宮下博士と結婚したが、彼女は家庭に閉じこめられた「生ける人形」としての妻の座に飽きたらなかった。そこに“電撃的出会い”が訪れたのである。

帝国ホテルでのダンスパーティーで藤原義江と顔を合わせたあきは、たちまち恋に落ちた。当時義江は、“我らのテナー”として人気絶頂、同時に“色魔”と陰口をたたかれるほど女性にだらしなかったが、魅了された彼女は、出会ってわずか三日後、彼と箱根で一夜をすごしている。この時「生きていてよかった」と思ったというから、あきの中の鬱屈はよほど強いものだったのだろう。

再婚後の彼女は、オペラを広めるために日本語で歌うことを勧めるなどよき伴侶として尽くしたが、昭和二八年、義江と若手オペラ歌手との不倫が発覚。これを機に別居、離婚。資生堂に入社して美容部長となった。自立の道を歩み始めたあきはNHKテレビ「私の秘密」で人気者となり、三七年、参議院選に立候補。タレント議員第一号として最高点の一一六万票を獲得した。

華麗な過去に加え、テレビによる国民的知名度を得た彼女は、参議院議員任期中の昭和四二年、癌によって死去した。

▲昭和5年1月17日、東京会館で結婚披露宴を行った二人。

勝者・敗者

“押し”が展開ラグビーを制す 相撲部出身・北島忠治率いる明治、早稲田から初勝利！

阿部珠樹

日本のラグビーは、まず慶応大学に創設されたチームによって始まった。明治三二年のことである。大正七年、早稲田大学に倶楽部ができ、早慶時代が始まる。大正一一年には第一回の早慶戦が開かれた。この年、ひっそりとうぶ声を上げたのが、明治大学のラグビー部だった。しかし、新参者は部員集めにも苦労するほどで、実力は早慶両校におよぶものではなかった。現在、ラグビー界最高の人気カードになっている早明戦が始まったのは大正一二年のこと。この時は早稲田が四二対三で明治を圧倒している。もちろん、観客は今の百分の一も集まらなかった。

昭和に入ると、早稲田はオーストラリア遠征を敢行し、現在にまで受け継がれる「ゆさぶり戦法」の原型を土産に帰国した。その成果はすぐ現れ、創部以来一度も勝てなかった先駆者・慶応を、昭和二年にはついに破った。

早稲田ほど華麗な歩みではなかったが、明治も徐々にチーム力を伸ばしてきていた。その結果は早明戦のスコアに現れている。最初の年に三九点あった得点差が、翌年には三三、さらに八、一二と詰まり、昭和二年には九対六とついに三点差まで追いつめることができるようになっていた。打倒早稲田。明治は秘策を練った。

その中心にいたのが北島忠治（二七）だった。北島は新潟県の出身で、最初相撲部に所属していたが、その力強い押しを見こまれ、大正一四年、ラグビー部に転部、早稲田追撃の先頭に立っていたのだ。華麗な早稲田の展開ラグビーをつぶすには、全員が愚直に押しまくるしかない。前へ。

北島を先頭に、この年、昭和三年の早明戦にのぞんだ明治フィフティーンは、試合開始から徹底的に押しまくり、早稲田のゆさぶりを封じる。許した得点はペナルティ・ゴールによる三点だけ。一一対三で、明治は創部以来五連敗を続けていた早稲田に初めて土をつけた。その功績が認められ、北島は翌年から監督に。そして早明戦を象徴する人物になっていく。

▲12月8日、対早大初勝利の一戦。全国制覇は昭和6年が初。

共同通信社

NHK提供

◀ラジオから「コケコッコー」(1月1日)ラジオ放送は急速に多様化、スタジオのマイクの前で動物を鳴かせる生態放送が、ウグイスやニワトリを使って行われた。東京放送局の新年の始まりは、鶏鳴だった。

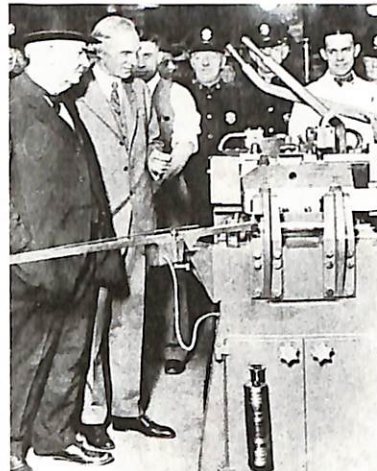
東奥日報社

▼第1回全国学生連盟スキー大会開く(1月14日)青森県大鰐町で3日間、学校別対抗試合が行われ、北大が複合競技をはじめ総合力で圧倒、早大の善戦を振り切り優勝した。写真中央は、臨席の秩父宮。

▼相撲放送、開始(1月12日)東京・国技館で春場所が行われ、松内則三アナが実況。放送開始にそなえて、仕切り制限時間を設定。前年の中等野球や水泳の放送に続いた。

▲元老・西園寺公望に「宮中杖」(1月4日)80歳以上の功臣に許す、宮中の古例によって授与。握りに鳩の丸彫りがあり、「鳩の杖」が正式名。写真は東京駅で。

◀フォード工業博が開催(1月)驚異の「フォードシステム」を一堂に展示。同社は1913年に量産体制確立、1920年には米自動車生産の50パーセントを占めた。写真は、見学中の発明王・エジソン(左)とヘンリー・フォード。

▼詩人協会が誕生(1月22日)島崎藤村、高村光太郎、北原白秋、萩原朔太郎ら、そうそうたるメンバーを評議員として、東京・丸ノ内の中央亭で創立会を開催。詩人相互の進展と親睦をはかるのが目的。写真右から二人目が河井酔茗。

朝日新聞社

昭和3年1月

1(日)●明治神宮に創建以来の初詣で客六〇万人。
2(月)●ソ連大使館員、ガスストーブ不良で中毒死。
3(火)●東京で女性二人が丙午生まれを苦にして自殺。
4(水)●宮中の古例で八〇歳になった西園寺公望ら功臣に「鳩の杖」贈られる。
5(木)●雪で不通の信越本線・関川橋(現・妙高高原町)を徒歩で渡り滑落した砲兵中尉らの死体発見。
6(金)●元蔵相・日銀総裁の市来乙彦、東京市長当選。
7(土)●ラグビー東西決戦で京都帝大が初の日本一。
8(日)●相撲協会、改革案発表。仕切り制限一〇分に。
9(月)●法大山岳部が木曽御岳制覇。冬季の高度記録。
10(火)●古宇田宮崎県知事、選挙違反連座で依願免官。
11(水)●吹雪の北海道沖で「東星丸」沈没。二三人死亡。
12(木)●大相撲実況中継開始。松内則三アナ人気呼ぶ。
13(金)●地主からの貸用料請求訴訟に敗訴した大阪府大冠村(現・高槻市)で役場の机などを競売。
●直訴事件(前年11月の観兵式で差別問題を直訴)の北原泰作二等卒の上告棄却。懲役一年。
14(土)●第一回全国学生連盟スキー大会開催。
15(日)●輸出絹織物に対する国営検査開始。
16(月)●ブリュッセルで、朝日新聞社から贈られる小便小僧用の陣羽織贈呈式が行われる。
17(火)●就職率は東京帝大で半分、早大五%と新聞に。
18(水)●東京・横浜両市、震災復興費国庫借入金の利子免除を大蔵省に要請。
19(木)●実業同志会(会長・武藤山治)、内閣弾劾宣言。
20(金)●公立大設立を市にも認可。
21(土)●田中首相、内閣不信任案提出前に衆議院解散。
22(日)●尾上梅幸、帝劇出演中に脳溢血発作で倒れる。
●北海道岩見沢町の工場で雷管一万個が暴発。
23(月)●日ソ漁業条約調印。日本は北洋漁業権を保持。
24(火)●総選挙日が月曜日と決まったことで無産諸党が当日は被雇用者を解放せよと政府に要求。
25(水)●フォード社、「新車御披露」の新聞一頁広告。
26(木)●全国露店商の神農会が姉崎一家襲名披露。
27(金)●五所平之助監督「村の花嫁」封切。
●東京市小学生の八六%が虫歯、と新聞に。
28(土)●民政党作成の山梨朝鮮総督機密費事件に関する印刷物二〇万部を東京・日比谷署が押収。
29(日)●漢方復活めざす東洋医道会、発会。
●省線京浜間の駅名が新かなに書き換え中、「しなかは」を「しながわ」など、と新聞に。
30(月)●新潟県直江津町の遊廓、普選記念で廃業届け。
31(火)●田中首相、選挙演説をレコードに吹きこむ。

ニュース・ファイル 1928

フォト＋日録で再現する366日

初めて実施された男子普通選挙の直後、共産党の壊滅をねらう「三・一五事件」が起きる。一方、関東軍は中国の内戦に乗じ、意のままにならなくなった張作霖を列車ごと爆殺した。そしてこの年、新たな天皇に期待してか直訴が頻発する中、一一月、盛大な即位礼が挙行された。

◀小林多喜二「一九二八年三月十五日」発表(11月)ナップ機関誌「戦旗」に連載。「三・一五事件」で検挙・拷問された小樽の労働者たちを描き、プロレタリア文学の旗手として、一躍脚光をあびた。25歳だった。

日本共産党提供

▲トーキー第1号は選挙演説(2月) 田中義一首相が初の男子普選を前に、官邸内庭で録音機つき撮影機の前に立ち、政友会内閣の施政方針演説(写真)。6日、東京・千駄木の小学校で上映され、約500人の人々がスクリーンの前に集まった。

毎日新聞社

▲日本、冬季五輪に初参加(2月11日)スイスのサンモリッツで第2回大会が開幕。25ヵ国から495人、日本はスキーで6人が参加した。写真は選手宣誓。日章旗を掲げるのは高橋選手。

▼初の男子普選実施(2月20日)納税額による制限を撤廃、25歳以上の男子が投票。衆議院総選挙に新風が期待されたが、政府が野党・無産政党を弾圧。写真は、大阪の街角に貼られた選挙ポスター。

朝日新聞社

▼「私はアナスタシア」(2月6日) 1918年7月の、革命後の銃殺を逃れたロシア皇帝の末娘と名乗る女性(写真上)が米国に出現。本人との証言もあったが、遺体の発掘調査ではロマノフ家は全員死亡。下は生前の王女。

ARCHIVE PHOTOS

Popperfoto／ユニフォト・プレス

朝日新聞社

▲太平洋横断計画、失速(2月29日)帝国飛行協会が、日本人の日本製飛行機による太平洋横断を計画。この日霞ケ浦から九州へ飛行、帰還の途上、佐賀県上空でK-12型機は爆発した。後藤飛行士(右)が焼死。

▶共産党「赤旗」創刊(2月1日)中央機関誌として極秘裏に頒布。前年のコミンテルン決議に基づき、党活動を公然化させた。第1回普選期間中は、謄写版印刷で月2回発刊、労農党を通じて立てた候補者への支援、党加入を訴えた。

日本共産党提供

昭和3年2月

1(水)●日本共産党機関誌「赤旗」創刊。
●逓信省、月掛郵便貯金制度を実施。
●日本ビクター、電気吹きこみレコードを発売。
2(木)●中国国民党、北伐再開を決定(革命軍総司令・蔣介石、軍政両権を掌握)。
●野田醤油争議団、労働総同盟の松岡駒吉に解決を一任し、要求の全面撤回を決議。
3(金)●インド全土で英サイモン委員会訪問を機に反英スト(4月ボンベイ紡績労働者がゼネスト)。
4(土)●樺太の小学校訓導、樺太―福島をスキー踏破。
5(日)●大礼の大嘗祭に用いる新穀を作る斎田を定める「斎田点定の儀」、悠紀田・主基田を決定。
6(月)●東京の中等学校願書受付。入試撤廃後初めて。
7(火)●労働農民・日本労農・社会民衆の無産三党、政府の選挙干渉に共同抗議書提出。
8(水)●日商、設立。鈴木商店の業務を継承。
●実業家・久原房之助、政友会から出馬と表明。
9(木)●秋田師範寄宿舎が全焼。一人焼死、負傷多数。
10(金)●ソ連商品組合代表、緑茶輸入契約のため来日。
11(土)●サンモリッツ冬季五輪開幕。日本は初参加。
12(日)●「円タク」ならぬ「一〇銭タク」出現と新聞に。
13(月)●朝鮮共産党事件判決。被告八三人に有罪。
14(火)●香川県で労農党委員長・大山郁夫候補への選挙弾圧が始まる(18日までに五百余人召喚)。
15(水)●米国の石油船、千葉県沖で爆発。一五人死亡。
16(木)●「たちまち美人になる化粧水」を無免許で製造販売していた男に召喚状。
17(金)●民政党、政友会に続き新聞一頁広告を掲載。
18(土)●小作争議対策に地主が続々会社設立と新聞に。
19(日)●鈴木喜三郎内相、議会中心主義否認を声明。
●警視庁、「清き一票を」と原稿にない投票呼びかけを行った松内則三アナを取り調べ。
20(月)●初の男子普通選挙による第一六回総選挙。政友二一七、民政二一六。無産諸派は八。
21(火)●伊のファシスト国防義勇団、正規軍に編入。
22(水)●普選実施と全集ブームで製紙業好況と新聞に。
23(木)●大蔵省、全国の銀行の実地出張検査を開始。
24(金)●東北本線福島県藤田駅で暴風のため列車転覆。
25(土)●熱海線の電化完成。東京―熱海三時間余。
26(日)●横浜税関、銀座・亀屋と京橋・精養軒で販売の紅茶・洋酒は密輸入品と発表。
27(月)●労農党選挙報告演説会で聴衆と警察官衝突。
28(火)●五大電力会社、電力過剰で設備新設延期決定。
29(水)●太平洋横断飛行練習機、佐賀県上空で爆発。

朝日新聞社

▲大阪のバスガールたち(3月)前年2月に開業した大阪市営バスに、婦人車掌が乗車。民営の青バスを意識して、白いシャツに赤いネクタイ、カーキ色の乗馬服というモダンないでたちだった。

▲マネキンガール誕生(3月24日)東京・上野で開催された大礼記念博で、高島屋呉服店が採用。人形が並ぶセットの中に、和服を着て座り、人形が動いたと場内は騒然。

交通博物館提供

▲東京―熱海間の電化(2月25日)熱海線の電化複線工事が完成。東京駅午前5時18分の始発から、蒸気機関車に代わる電気機関車が牽引した。熱海まで約3時間。写真は根府川付近で。

▼尾崎行雄、宝塚少女歌劇を観る(3月30日)〝憲政の神様〟が歌舞伎座での東京初公演で、関西で大評判のレビュー「モン・パリ」を堪能した。写真右から宝塚生みの親・小林一三と尾崎。

▼第2皇女・久宮祐子内親王逝去(3月8日)敗血症が悪化、皇后の徹夜の看病もおよばず、生後181日の命だった。服喪は7歳未満のため行われなかった。写真は東京・築地本願寺幼稚園での追悼。

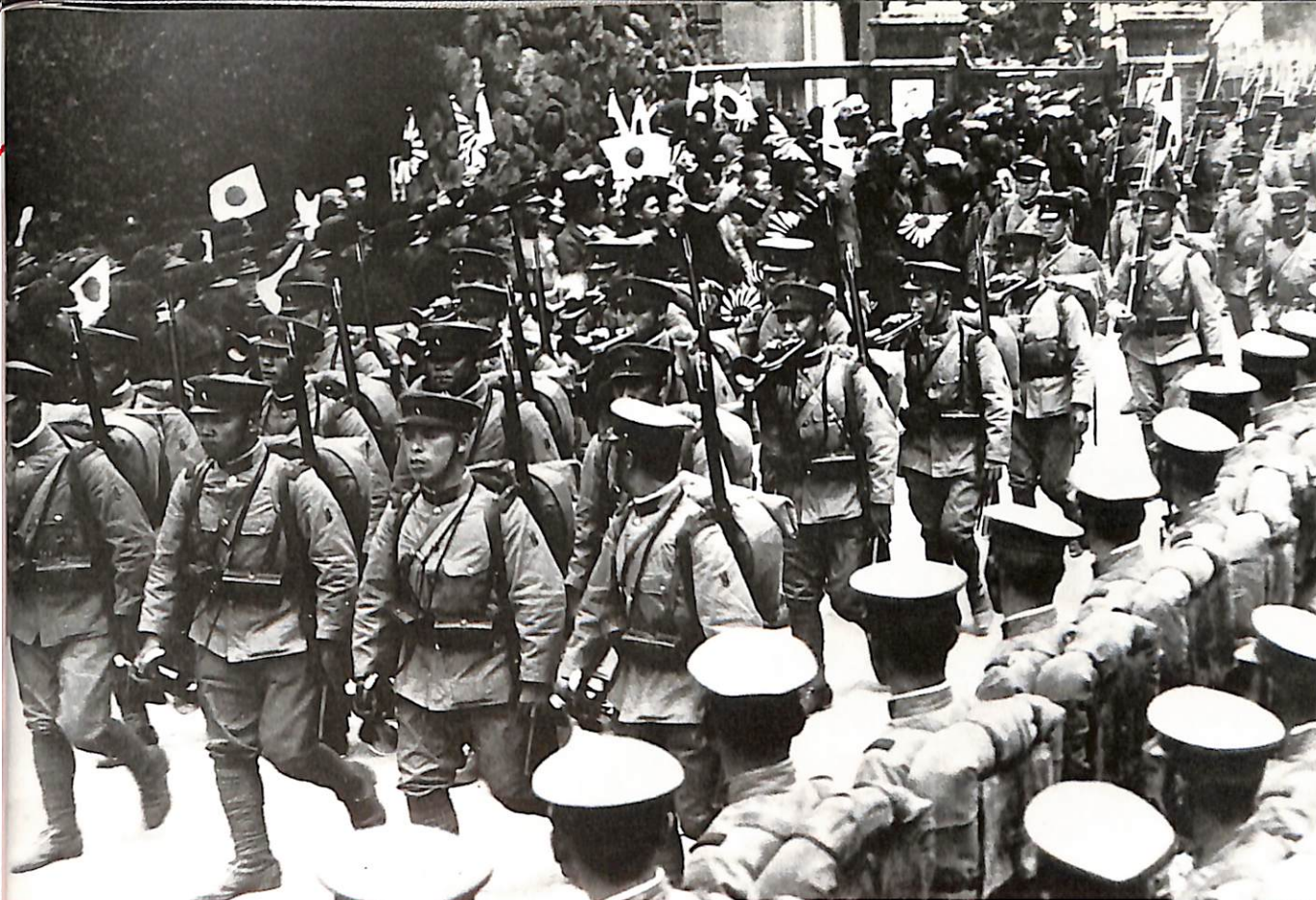
▲「三・一五事件」起こる(3月15日)1道3府27県、百数十ヵ所で警察官が一斉に突入、治安維持法違反で、共産党幹部の野坂参三・志賀義雄ら約1600人を検挙、党の壊滅をはかった。写真は翌年、大阪地裁に入る被告たち。

「写真通信」

朝日新聞社

昭和3年3月

1(木)●日本放送協会、ラジオ聴取料規約を全国統一。
2(金)●柳家金語楼の兵隊落語は軍事的に有害と東京憲兵隊がレコード販売自粛通達、と新聞に。
3(土)●観世流家元・左近元滋襲名披露演能会、開幕。
4(日)●常磐線熊川橋で貨物列車脱線、一四両宙吊り。
5(月)●東京のインフルエンザ患者一〇〇万人、二月中の死者は一六八二人、と新聞に。
6(火)●京都のマキノ・プロダクション事務所が全焼。封切直前の「実録忠臣蔵」フィルム焼失。
7(水)●三浦環、ニューヨークで初のラジオ出演。
8(木)●生後一八一日の第二皇女久宮祐子、死去。
9(金)●道府県学務部に専任の地方視学官(学事の視察・観察が任務)を設置。
10(土)●関東一帯の暴風雨のため銚子沖で遭難の船舶救助に、横須賀鎮守府の駆逐艦出動。
11(日)●麒麟麦酒、「キリンレモン」の製造を開始。
12(月)●七婦人団体が婦選獲得共同委員会を結成。
13(火)●東京・神田の巌松堂の少年店員が丁稚奉公制度に反対して争議突入(17日待遇改善約束)。
14(水)●共産党幹部・佐野学、ソ連へ脱出。
15(木)●共産党弾圧、一五六八人検挙(三・一五事件)。
●東京・上野で流行のシェパード展覧会開催。
16(金)●東京・淀橋署に勾留中の労働党員夫婦の乳児、留置所内で急死。
17(土)●台北帝国大学設置(四月一日開設)。
18(日)●満州(中国東北部)穆稜の極東朝鮮人学校が中国政府により「赤化」理由に閉鎖と新聞に。
19(月)●陸軍の模擬戦「奉天会戦の一日」をラジオ中継。
20(火)●岡山市で大日本勧業博覧会、高松市で全国産業博覧会が開幕。
21(水)●田谷力三らのヴォーカル・フォア、初演奏会。
22(木)●東京府吾嬬町の工員一〇人が天然痘と判明。
23(金)●大阪商科大、設立認可(市立大学の第一号)。
24(土)●上野での大礼記念博覧会で、和服出品の高島屋が初めてマネキンガールを採用。
25(日)●全日本無産者芸術連盟(ナップ)結成。
26(月)●慶大山岳部員、穂高をスキー踏破中に遭難。
27(火)●チェコスロバキアのマサリク大統領に贈勲。
28(水)●パナマ国民会議、日本人入国禁止を解除。
29(木)●左右対立激化する東大学友会、解散を決定。
30(金)●宮城県前谷地村で地主の小作地取り上げに四五〇人が共同耕作で対抗(4月25日勝利)。
●チャップリンの「サーカス」封切。
31(土)●横須賀海軍工廠で空母「加賀」竣工。

▲**東京名物「駅の電気時計」(4月)** 大正14年に山手線が環状運転を開始したが、その品川・新宿・田端駅に設置。東京駅の親時計と連動し、正確が売りもののはずだったが「試験中」「修繕中」が多発。

▲**済南事件勃発(5月3日)** 山東出兵の日本軍が、北伐再開の蔣介石の国民革命軍と激突。「居留民保護」のはずの戦闘が、済南城占領にまでいたり、後の関東軍独走のきざしをうかがわせた。

▼**結社禁止・解散命令(4月10日)** 治安警察法第8条発動。「三・一五事件」に続く仮借ない弾圧が、左翼団体にまでおよんだ。写真は、入り口を封鎖された無産者クラブ。

▶**「ほんみち教」不敬事件起こる(4月3日)** 教義で天皇の神格を否定したとして、教祖・大西愛治郎ら天理研究会員385人を検挙。写真は、立ち入り禁止となった奈良・磐城村の教団本部前で礼拝する信者。大西は、最終審で無罪。

▲**野田醤油争議の請願団、東京へ(4月1日)** 千葉県から、内務省などに向け2000人が行進。しかし、江戸川渡船場付近で警察にはばまれた。20日、争議は218日ぶりに解決する。

▶**李王夫妻、父王陵墓に参拝(4月5日)** 明治43年の日韓併合以来、李王家は皇族に組みこまれ、李氏朝鮮の世継ぎ・李垠は、大正9年に梨本宮の長女・方子を妃とした。帰省中の夫妻は父の李王拓廟・祐陵と、祖父の洪陵の参拝に向かった。

昭和3年4月

1(日)●野田醤油争議団の請願団二〇〇〇人、入京直前の江戸川で警官隊に阻止される。
●東京電灯、東京電力を合併。
2(月)●小学校入学児激増で東京では二五〇学級増設。
3(火)●ほんみち教祖・大西愛治郎ら、不敬罪で検挙。
4(水)●新型旅客用蒸気機関車C53形、完成。
5(木)●八丈島近海で初ガツオ三〇〇〇尾の大漁。
6(金)●全国農民団体合同協議会、決裂。統一ならず。
7(土)●蔣介石、北伐を再開、各部隊に総攻撃を命令。
8(日)●紡績不況で工場労働者数は七㌫減、と新聞に。
9(月)●トルコ、憲法のイスラム教国教条項を廃止。
10(火)●労働農民党・日本労働組合評議会・全日本無産青年同盟に治安警察法による解散命令。
●全国連合組織として日本商工会議所、設立。
11(水)●大山郁夫、東京駅で右翼に襲われる。監視中の日比谷署長、殴っていないと右翼を弁護。
12(木)●文部省、夜間職業学校の設置を認可。
13(金)●米、日英独伊に不戦条約締結を提議。
14(土)●大礼用儀服は染料含め純国産に決定と新聞に。
15(日)●日本共産党台湾民族支部、上海で設立。
●仙台で東北産業博覧会開幕(一六〇万人来場)。
16(月)●京都帝大教授・河上肇、圧力受け辞表提出。
17(火)●東京帝大、新人会に解散命令(以後、京都・九州・東北の各帝大で社研解散)。
18(水)●弘前市で大火。七〇〇戸焼失、四〇〇〇人罹災。
19(木)●閣議、第二次山東出兵を決定。
20(金)●戦前最長の野田醤油争議解決。三四二人復職。
●警視庁、丸菱食糧部を臨検。黴びたイカ発見。
21(土)●東京左翼劇場第一回公演。村山知義「進水式」。
22(日)●震災共同基金会が東大地震学教室に年一〇〇〇〇円の研究費を五年間寄付、と新聞に。
23(月)●東京府亀戸町で花火工場爆発。一二人死傷。
24(火)●省線田端駅で電車転覆。五十余人重軽傷。
25(水)●『日本歌謡集成』刊行開始。
26(木)●社会民衆党の西尾末広、初の無産党議員として衆院で演説。野次で議場騒然。
27(金)●与野党緊迫の議会に傍聴希望者数万人が殺到。
28(土)●衆院に鈴木内相弾劾案上程。三日間の停会で民政党、工作に備え議員禁足(缶詰議員)。
●六代目尾上菊五郎、ウイメンズ・クラブの外国人女性に歌舞伎に関する講演を行う。
29(日)●無産党合同の共同内閣打倒民衆大会で警官隊が取材陣に暴行、負傷多数。
30(月)●大阪で売り上げ飲みこんだ車掌をX線で調査。

証言・あの日この日
川端康成(28)

4月20日(金) 〈僕は恐らくマルクス主義の文学者にはならぬであらう。マルクス主義的な作品を書くことがあるかもしれぬが、その後でまた仏教的な作品を書くであらう。さう云ふことは何らマルキストではない。しかしながら、君の転換には悲しい理解を持つ。/来月早々東京へ引越すつもりだ。いづれ会つて。何しろ徹夜つづきで疲れてゐるから、失敬〉(川端康成『川端康成全集補巻二』)

この頃、多くの文学者が左傾していったが、「文芸時代」以来の親友で作家の片岡鉄兵が、この年3月「労農党」へ入党すると、川端もあらためてマルクス主義やプロレタリア文学の歴史的必然性について考える。しかし川端は動揺することなく、自分は芸術派としての道を進む決意であることを書き送る。二人は、思想的には大きく袂を分かつが、友情はそのまま続く。(山崎行太郎)

▲**ゴーリキー、ロシアに帰る(5月28日)** 『どん底』で有名な文豪が、イタリアから7年ぶりに帰国、モスクワ市民の大歓迎を受けた。生誕60年、文壇生活35年記念大祝賀会に列席するためだった。

▶**野口英世、死去(5月21日)** 西アフリカのアクラで、研究中の黄熱病に冒されて客死した。51歳。梅毒スピロヘータなどの研究で知られる、世界的医学者だった。

◀**慶大野球部、米国遠征(5月)** 総勢16人が3月に出発、ロサンゼルス、シカゴ、ニューヨークなどを転戦。写真はハリウッドを訪れたチームと俳優のロン・チェイニー。

▶**坂本龍馬の銅像完成(5月27日)** 高知県青年団が土佐出身の彫刻家・本山白雲に依頼、募金と秩父宮の下賜金で宿願をはたした。桂浜から土佐湾を眺める〝維新の志士〟の立像は、高さ約5メートル。

◀**ラジオ放送、全国へ(5月20日)** 日本放送協会が、埼玉・新郷、大阪・千里に10キロワット放送所を新設、東京・大阪から「大電力放送」を開始した。写真は、その宣伝ポスター。

昭和3年5月

1(火)●第九回メーデー。東京で二万四〇〇〇人参加。
2(水)●警視庁、東京市内の食堂六一五店で厨房検査。
3(木)●山東省済南で国民革命軍と日本軍衝突(済南事件。11日、日本軍、済南を占領)。
4(金)●初の純国産旅客輸送機、試験飛行中に墜落。
5(土)●勅使河原蒼風、第一回草月流展を開催。
●人見絹枝、陸上四〇〇㍍で五九秒〇の世界新。
6(日)●上海特別市党務委、対日経済交渉打ち切り。
7(月)●内務省、保安部を新設し特高関係移管と決定。
8(火)●第三次山東出兵(名古屋第三師団)、決定。
9(水)●日本海員組合、船主協会と川崎汽船に最低賃金制要求(6月8日初の産別最低賃金制獲得)。
10(木)●中国国民政府、山東出兵を国際連盟に提訴。
●定期交通機関を利用した東回り世界一周で荒木東一郎が三三日余の世界新で東京帰着。
11(金)●米・ニューヨーク州でテレビ定時番組始まる。
●初の全車両鋼製客車、東京—神戸で運行開始。
12(土)●伊、普通選挙を廃止し指名候補者制とする。
13(日)●写真家の祖・下岡蓮杖記念碑が下田町で完成。
14(月)●台中市で久邇宮邦彦を趙明河が襲撃。
15(火)●張作霖と満鉄、吉会(吉林—会寧)・長大(長春—大連)鉄道工事請負を契約。
16(水)●中国の反日高揚で絹布輸出の契約破棄続出。
17(木)●長野県での徴兵忌避事件で教員に無罪判決。
18(金)●阪東妻三郎主演「坂本龍馬」封切。
19(土)●婦人消費組合協会(委員長・奥むめお)設立。
20(日)●独議会選挙で社会民主党・共産党が議席増大。
●日本放送協会、出力一〇㌔での放送開始。
21(月)●野口英世、黄熱病で死去。五一歳。
●大阪中央放送局、初のラジオドラマを放送。
22(火)●野球熱高まり道路でのボール投げが流行、事故多発のため警視庁が取締りを通牒。
23(水)●二一日辞表提出の水野文相、優諚(天皇の仰せ)を賜ったと留任(優諚問題。25日辞任)。
24(木)●弁護士協会、治安維持緊急勅令案に反対決議。
25(金)●北京政府、日本は九ヵ国条約違反と正式声明。
26(土)●第一回全日本学生陸上競技大会。早大が優勝。
27(日)●日本農民組合と全日本農民組合合同し、全国農民組合(全農)、結成。
28(月)●政府、排日運動が高まるカナダに対し新規移民を年一五〇人に制限と通告。
29(火)●相模湾にマグロの大群。大漁で相場下落。
30(水)●張作霖、北伐に押され北京総退却を命令。
31(木)●常磐線で上段寝台が落下、下敷きの一人負傷。

▲東京名物のニコライ堂が復活（6月24日）震災で廃墟となり、前年末から再建工事開始、本堂ドーム屋根に据える金色の大十字架が完成。写真は、高さ約2.4メートル、金箔塗りの十字架の祈祷式。

「国際写真情報」／国際フォト

▼国民革命軍、北京入城（6月9日）奉天軍閥・張作霖を追放、北伐を終了し中国統一をはたした。蔣介石は北京を北平と改称、10月にはみずから南京を首都とする国民政府主席に就任した。

▲大阪で初の防空演習（6月30日）翌月7日まで実施。仮想敵機に対する高射砲射撃で開幕。5日には灯火管制で、全市が暗闇になった。写真は、演習に登場した防空用気球。

▼◀アムンゼン（55）還らず（6月18日）ともに北極点上空を飛んだ旧友・ノビレ将軍（写真下右）の飛行船が北極で墜落し、その捜索に向かい、消息を絶った。ノルウェー生まれ、極地探検の第一人者だった。

毎日新聞社

▲直訴の男、逮捕（6月19日）皇女久宮の墓所、東京・豊島ケ岡に行幸した天皇の行列に、自分の不当解雇を直訴しようとした男が、護国寺前で捕まった。この写真は、遅版の新聞では掲載中止になった。

朝日新聞社

アメリカンフォト・ライブラリー

「イリュストラシオン」

昭和3年6月

1（金）●三越呉服店と大丸呉服店、三越・大丸と改称。

2（土）●貴族院各派、優諚問題で政府問責の共同声明。

3（日）●動物愛護週間にちなみ宮城前広場で優秀な馬子・飼い主・馬の表彰式。

4（月）●関東軍、奉天へ引揚げ中の張作霖を瀋陽駅付近で爆殺（満州某重大事件）。

●初のむし歯予防デー。歯科医師会が予防運動。

5（火）●改造社『マルクス・エンゲルス全集』刊行開始。

●放送協会札幌局放送開始（16日仙台・熊本も）。

6（水）●日本宗教大会、「現宗教家が資本家に媚びる」と発言した賀川豊彦を弾劾。

7（木）●岩手県羽田村の北上川で田植えに向かう男女六十余人乗せた渡船転覆。一二人行方不明。

8（金）●『落語滑稽本集』（「近代日本文学大系」）発禁。

9（土）●全学生自治協議会開催。ビラまきで九人検束。

●中国国民革命軍、北京入城（北伐終結）。

10（日）●東京府会議員選。民政四六、政友三四と逆転。

●映画監督・衣笠貞之助、欧州視察に出発。

11（月）●八幡製鉄所、創業以来最多の一一三人解雇。

12（火）●日銀総裁・井上準之助辞職。後任、土方久徴。

●大衆演劇の神田劇場が映画館に転換と新聞に。

13（水）●全国廃娼大会に洲崎遊廓の二娼妓逃げこむ。

14（木）●漣洋画展出品作品中、裸婦画四点に撤回命令。

15（金）●片岡千恵蔵主演「天下太平記」封切。

●無産諸党、治安維持法改正反対の全国運動へ。

16（土）●東京市家計調査で世帯主の収入だけで家計を維持できる世帯はなし、と新聞に。

17（日）●静岡県水産試験場、空からの魚群探知を開始。

18（月）●探検家・アムンゼン、北極への途上で行方不明。

●米国のイアハート、女性初の大西洋横断飛行。

19（火）●東京・護国寺前で男が不当解雇を天皇に直訴。

20（水）●中国、北京を北平に改称（南京を首都に）。

21（木）●民政党、山東出兵は軽挙妄動と批判声明発表。

22（金）●京浜運河開削反対の海苔業者、養殖業の損害について直訴をくわだて赤坂離宮に侵入。

23（土）●花柳病予防法を九月に一部実施と公布。

24（日）●乱獲のイタチ保護のため狩猟法改正と新聞に。

25（月）●五十銭銀貨偽造容疑で横浜の看板金箔師逮捕。

26（火）●陸軍中央部、張作霖爆殺事件につき関東軍高級参謀・河本大作を事情聴取。

27（水）●大阪新淀川の長柄橋、豪雨で橋脚が折れ崩落。

28（木）●九州全域で豪雨。鹿児島本線不通。

29（金）●治安維持法改正公布施行。死刑・無期を追加。

30（土）●大阪で初の防空演習が始まる。

「現場」を歩く
浅草
映画とともに盛衰した六区「活動街」の新戦略

山本徹美

▲客足もまばらな現在の六区映画街。左手前は、浅草演芸ホール。　但馬一憲

昭和三年、空前の映画人気が到来する。「浅草の景気は沸き返るやうな有様で朝の十時の開館から活動街は身動きもならぬほど（中略）新築なつた電気館など一日に一万人余もいりここも平素より五割以上（中略）三ケ日に浅草の興行ものにだけ落ちた金でも三十万円は下るまい」（「東京朝日新聞」昭和三年一月五日）

「活動街」、すなわち映画館が立ち並んだのは、浅草でも「六区」と呼ばれた地区のメインストリートだった。

明治一七年、政府は浅草公園を一区から七区に分割、各区画の土地貸し付けを開始した。そのうち六区は、前年九月、防火用のため池を掘った土で埋め立ててできた場所で、見世物小屋や遊技場などがここへ移動、興行を開始する。当初、人気を博したのは〝南洋渡来〟の「玉乗り」で、次は西洋からサーカスを導入。やがて芝居用の劇場が建ち、そこで活動写真を上映するようになる。「電気館」（前記）は日本初の活動写真常設館で、関東大震災により木造家屋が倒壊すると、昭和元年には地上三階の鉄筋コンクリート造りに建て直した。

浅草出身の作家・加太こうじ（大正七年出生・故人）が『浅草物語』に書く。

「昭和初期の浅草は、五〇銭銀貨一枚あれば、食べて映画を見て一日遊べる。（中略）少年店員などが、六区の映画街や、その周囲の安飲食店を超満員にした」

街路を舞台に

浅草六区を訪ねてみた。かつての活動街は雑居ビル街と化し、メインストリートは舞台に似せた床模様をほどこしたブロック敷きに。

「その街路は中央に植樹帯があったのを除去し、平成八年三月、地元と共同で整備しました。ブロック単体は六角形をしていますが、これは六区にちなんでいて、地元の要望です」（台東区役所土木課）

その名も「六区ブロードウエイ」。同商店街振興組合の松倉久幸理事長（六三）は、浅草演芸ホールやフランス座を経営する東洋興業の社長だ。

「映画街として栄えていた頃は、道の両脇にズラーッとのぼりが並んで、まるで林みたいだった。最盛期には三三館ありましたよ。それが昭和三〇年代、テレビが普及するといっきょに下火となった。今や八軒しかないんですからねぇ」

電気館は昭和五一年に閉館、解体されて蚤の市会場に使われていたが、平成二年、飲食店つきの高級マンションに生まれ変わった。東洋一だった国際劇場はホテルに、松竹系の演芸場や劇場跡地はホテルの経営するエンターテインメントビルへ。ホテル街の趣とは異なるものの、外国人、親子連れ、婦人グループなど観光客の姿が目につく。松倉理事長の弁。

「一〇代、二〇代の客を取り戻そうと、六区ブロードウェイを舞台に街角絵画展を開くなど、工夫を凝らしています」

進取の気風で繁栄してきた浅草六区。今も新風を巻き起こそうとする熱意は失われていない。

▲道の両脇にのぼりが立ち並ぶ、昭和初期の「活動街」。明治以来浅草は、民衆娯楽のメッカとしてにぎわった。

ベストセラー
中条百合子、平林たい子の女性の"生き方"を問う力作

◀「伸子」（改造社、2円50銭）
日本近代文学館提供（右下2点とも）

この年三月に「全日本無産者芸術連盟（ナップ）」が結成され、機関誌「戦旗」が創刊されるなど、いわゆるプロレタリア文学はその最盛期を迎えようとしていた。また、女性解放運動の流れの中からは、先進的な婦人総合誌「女人芸術」が、長谷川時雨らの手で復刊されるなど、物情騒然としてきた世の中がそのまま出版状況に映し出されていた。

そんな時代を象徴したのが、中条（後に宮本）百合子の長編小説『伸子』や平林たい子の短編集『施療室にて』だった。

中条百合子の『伸子』は、結婚からその破局へといたる実体験を素材とした小説で、離婚後の大正一三年九月から一五年九月までの間に「改造」に掲載されたのを長編小説にまとめたもの。著者自身はその序文の中でこの作品を「作の上に年輪のやうに発育の痕跡が現れて居る点、自分は愛を感じて居る」と記した。作品の最後、夫に別れを告げたシーンで、夫が「あゝ、鳥でさへ帰つて来るのに……」と嘆いたのに対して、「苦々しい心が湧き、伸子は目を逸した。飼鳥になつては堪らない。さういふ心地がした」と、きっぱり記したところにも、この作品の大きな意義があった。

また平林たい子の『施療室にて』では、その表題作で描き出した悲劇的な体験が強烈な印象を与えた。生まれてきたばかりの愛児を栄養不足で亡くしてしまうのだが、"人工栄養"をほどこす金もなかったという事実をただ嘆くだけでなく、そこから力強く未来を切り開こうとする主人公は、まさにこの時代の女性の生き方を象徴していた。

またこの年一一月には「ブルジョア文化に対抗して、今や世界に新しい文化が創造されつ、ある——国際プロレタリアートの文化がそれだ」と高らかに宣言した総合雑誌「国際文化」が創刊された。創刊号では本格的な"世界左翼新聞雑誌の研究"を特集するなど、腰を据えた編集が目立つ雑誌だった。

▲「国際文化」創刊号（白揚社、40銭）

◀「施療室にて」（文芸戦線社出版部、1円）と、扉ページに付されたイラスト（尾崎三郎画）。

スターと名場面
「鞍馬天狗」を当たり役に"アラカン"さっそうと登場！

マツダ映画社提供（3点とも）

"アラカン"こと嵐寛寿郎や大河内傳次郎は、無声映画の最盛期に登場した時代劇のトップスターだった。そしてこの年、嵐寛寿郎は彼の代表作となる「鞍馬天狗」（山口哲平監督）に登場し、その人気を不動のものにした。好敵手・近藤勇を向こうにまわしての活躍が、拍手喝采を得たのである。また大河内傳次郎は、そのデモーニッシュな雰囲気で他を圧倒し、スクリーンいっぱいに暴れまわったが、この年には伊藤大輔監督とのコンビによる「血煙高田馬場」が製作・公開された。喧嘩早い堀部安兵衛が高田馬場への一里半を一気に駆け抜け、仇の一八人を斬りまくる大立ち回りをクライマックスにした映画で、大河内傳次郎の特徴が遺憾なく発揮された。

洋画では、チャールズ・チャップリンの「サーカス」が公開され、チャップリンの芸達者ぶりが一層、際立って見えた。サーカス団の団長でもある演出家の言うとおりに演じると、観客はしらける一方だったのに対して、チャップリンの演技は大受け。チャップリンがいかに面白いかわかる仕掛けにもなっていた。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「実録忠臣蔵」（伊井蓉峰）　坂本龍馬（阪東妻三郎）　「暗黒街」（ジョージ・バンクロフト）

▲「鞍馬天狗」で、さっそうとした剣士を演じ、以降自分の当たり役とした嵐寛寿郎。

▲「サーカス」で、サルに悪戯されながら綱渡りをやってのける、チャップリンの名演技。

▲狂気すら感じさせる演技で、人気を博した大河内傳次郎。「血煙高田馬場」での熱演。

モノ語り'28
発売はこの年？ 驚きの"定番"登場「トーホー自動番号器」「キリンレモン」「パブロン」

◀**明るいデザインの御大典記念タバコ**　専売局（現・日本たばこ産業）からこの年発売された御大典記念タバコ「昭和」。パッケージデザインを、洋画家の岡田三郎助が手がけて話題になった。同時に発売された両切りタバコの「グローリー」のパッケージも同画伯によるものだったが、「昭和」のような、吸い口つきタバコのパッケージデザインを洋画家が手がけるのは珍しかった。これが発売された当時、タバコ屋の店先が明るくなったと伝えられている。価格は20銭。たばこと塩の博物館蔵

▲**"咳どめ"定番が発売された**　大正製薬所（現・大正製薬）から咳どめの薬「パブロン」（現在は総合感冒薬）が前年に発売され、この年頃から評判になった。パブロンの名称は、ラテン語の"すべての"を意味する語と"気管支炎"を意味する語の合成でできた。錠剤とエキスがあり、50銭、1円、2円だった。

▲**映画の人気者がメガネの名称に**　大正末期から昭和初期にかけて、モボたちの間で流行したものに、この「ロイドメガネ」がある。従来のフレームがメタルフレームだったのに対し、セルロイド製のフレームだったところに、大きな特徴がある。それで「（セル）ロイドメガネ」と呼ばれたとも、また当時爆発的に人気を呼んでいたアメリカの喜劇俳優、ハロルド・ロイドがかけていたからだとも言われている。いずれにしても、ファッション・メガネのはしりである。
めがねの博物館蔵／平山亮

▲**ハーモニカも次第に精密になった**　トンボハーモニカ製作所（現・トンボ楽器製作所）が販売するハーモニカは、その質のよさで人気を呼んでいたが、この頃、新製品として「ミヤタバンド20穴複音」を販売し、これもヒットさせた。なお、ミヤタバンドという名称は、ハーモニカの名手・宮田東峰の名を冠したブランド名である。1本1円60銭だった。　服部晶一郎

ラベルを手で貼っていた時代

キリンレモンは、先行他社製品がいずれも着色料を使用し、瓶も淡緑色のものだったのに対し、着色料を使用せず、しかも無色透明の瓶に詰めて特色を出したが、無色透明の瓶は光線を通し、含有する香料に悪い影響をおよぼすので、ラベルを貼った後、半紙大の紙で1本1本包んだ。ラベルには写真の胴貼りラベルのほか、"絶対ニ人工着色ヲ施サズ"と書いた裏貼りラベルもあり、その一枚一枚が手貼りだったのである。

▲透明なガラス瓶に映えた多色刷りのラベル。

▲**清涼飲料水の戦争が始まった**　サイダーをはじめとする清涼飲料水市場が広がり、大正15年には清涼飲料税法が制定されるなど、さらに発展する方向にあった。こういった状況の中、麒麟麦酒（現・キリンビール）はこの年「キリンレモン」を発売、清涼飲料水市場に名乗りをあげた。特徴は「絶対二人工着色ヲ施サズ」と宣言したことと、無色透明の瓶を使って清涼感、爽快感を前面に打ち出したところにあった。しかも、価格は既存のサイダーより2銭安い、25銭だった。

▲**国産事務用品の花形登場**　事務機、事務用品といえばほとんど輸入品だった時代に、国産の「トーホー自動番号器」（ナンバリング）が内田洋行から発売され、人気を呼んだ。活字は硬質の真鍮製で、繰り返し打ちや連続打ちなど、6通りの打ち方が可能、ノブは木製で握りやすかった。製作は横浜の鈴木商店で、品質優良な花形商品として業界をリードした。

人物クローズアップ

高柳健次郎（二九）

テレビに初めて〝顔〟が映った！ 二〇年先を見据えた開発者の夢

▲昭和3年、高柳が初めてテレビに映し出すことに成功した人物の顔と手。上段が実物で、下がその受像写真。

昭和三年一二月二八日、高柳健次郎（二九）は電気学会のテレビ公開実験で、電子式受像機に人物像を映し出すことに成功した。電機学校（現・東京電機大学）の物理の階段教室で行われた実験には、電気学会の会員に加え、文部省の役人ほか各界から多くの人々が集まり、実験を見守った。受像機に映った男性の顔は、ぼんやりとして〝心霊写真〟のようなものだったが、電子式で人物像が映っていることに専門家たちは驚き、テレビに対する認識を改めることになったのである。

大正一三年にテレビの研究を始めた高柳は、全電子方式のテレビをめざしていたが、送像機に問題があるため、とりあえず送像機は機械式を採用して開発を進めた。しかし、そこにもまた問題があった。光電管の性能が悪いために、被写体が普通の明るさでは映らないのである。試行錯誤のすえ、被写体が燃えるほどの強い光を集中的にあてることで、昭和元年一二月二五日、世界初の電子式のテレビ画像、「イ」の字を映し出した。

しかし、人間には火傷をするような強い光はあてられない。そのため、被写体上を光が移動する方式を採用し、また光電管の改良などもあって、高柳は人間の顔を映し出すことに成功したのである。

高柳健次郎は、明治三二年一月二〇日、静岡県浜名郡和田村（現・浜松市）生まれ。大正三年、教師にあこがれて静岡師範に入学したが、次第に電気に強い興味を持つようになった。七年、東京高等工業学校（現・東京工業大学）に入学、そして一〇年に同校を卒業したが、在学中に興味を引かれたのがラジオだった。

しかし、アメリカではラジオの商業放送が始まっていて、それを後追いで研究しても仕方がない。テレビの研究を高柳が生涯のテーマにしようと決めたのは、大正一二年のことだった。

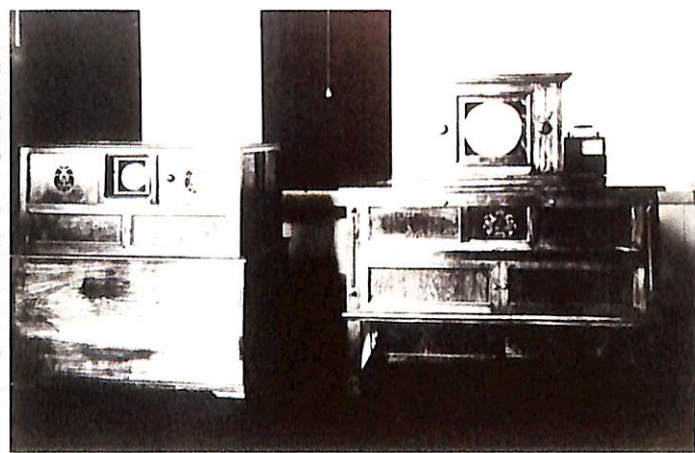
翌一三年、浜松高等工業が設立され、その助教授として招かれた高柳は、本格的なテレビの研究にとりかかった。以降の高柳によるテレビ研究は、日本のテレビ研究の歴史である。高柳が最初の目標として掲げた全電子式のテレビが完成したのは、昭和一〇年のことだった。

欧米のテレビ研究と高柳の研究は、互いに競うようにして続けられたが、昭和一七年、第二次大戦によって研究は中止。しかしテレビは、すでにこの段階で実用化できるところにまで到達していた。戦後の二一年七月、高柳は日本ビクターに入社、テレビの研究を再開することになるが、こうした高柳の優れた研究によって、昭和二八年、日本最初のテレビ本放送が始まるのである。

高柳の研究は、常に二〇年先を見据えたものだった。高柳記念電子科学技術振興財団理事長で長男の高柳俊氏によると、高柳はかつてこう言っていたという。

「VHSのビデオを発明した頃ですから、昭和三〇年代の後半でしょうか、テレビは将来、壁掛け式で現在のハイビジョンのようなものになると言っていました。今、それが実現しているんですよ」

昭和五五年に文化功労者、五六年には文化勲章を受章。そして平成二年七月二三日、高柳は九一歳でその生涯を閉じる。

◀昭和元年一二月二五日、大正天皇崩御の日に映った「イ」の字。世界初の電子式テレビだった。

▶天覧実験の際のテレビ受像装置。下のキャビネットの中には、大量の電池がつながれていた。

▲昭和5年5月30日、浜松高工の教室でテレビの天覧実験を行う高柳。天皇に対し高柳は、「将来は放送で楽しめるようになります」と説明したという。 高柳記念財団提供（見開き全点）

▲この処刑の瞬間を隠し撮りするために、周囲に顔を知られていないシカゴのカメラマンが起用され、1ヵ月間の特訓が行われた。 トーマス・ハワード New York Daily News AP WWP

決定的瞬間

この写真で一〇〇万部突破！ 電気椅子での〝処刑の瞬間〟が夕刊紙のスクープ合戦で圧勝

夫殺しの罪で一九二八年一月一二日、電気椅子で死刑執行された米国・ロングアイランドの主婦、ルース・スナイダー（三三）の〝死の瞬間〟である。ルースの姿は下から上を見上げる角度で写され、全体がブレてピントが合っていない。顔はマスクでおおわれ、表情は見えないが、スカートから出ている二本の足が、なまなましく女性の存在を感じさせている。

彼女は夫に毒入りウイスキーを飲ませ、針金で縛り、三六歳の愛人と二人で分銅で殴り殺した罪で処刑された。この猟奇的な殺人事件を、タブロイド紙が第一面で取り上げたのは当然だった。

当時、ニューヨークのタブロイド版の夕刊紙は「デイリー・ニューズ」（一九一九年創刊）が創刊五年で七五万部の発行部数を誇り、この成功を見た〝新聞王〟ウィリアム・ランドルフ・ハーストが対抗紙として一九二四年に「デイリー・ミラー」を創刊。また、露骨なセックス記事で読者数を伸ばした「ニューヨーク・イブニング・グラフィック」（一九二四年創刊）などが、競い合っていた。こうした夕刊紙は、第一面の三分の二をタイトルと写真で占める派手な紙面作りが特徴で、夫殺しで死刑判決を受けたルース・スナイダーの事件は、激しいスクープ合戦のかっこうの対象だった。

こうした中で「デイリー・ニューズ」は、カメラ取材が許されていない処刑現場にカメラマンを潜入させ、死の瞬間を隠し撮りすることを企画。シカゴから呼び寄せられたカメラマンは入念な準備のうえ、看守に見つからぬよう足首に結びつけた小型カメラを使い、処刑の瞬間に足を組んでシャッターを押した。撮影された写真は、翌日の一月一三日に、「DEAD!」というタイトルをつけられて新聞の一面を飾り、この日の「デイリー・ニューズ」は実に一〇〇万部を突破した。

一九〇〇年代初頭のアメリカは、〝イエロー・ジャーナリズムの時代〟だと言われている。イエロー・ジャーナリズムとは「ワールド」（一八八三年ピュリッツァーが買収）に連載されていた人気マンガ「ホーガン路地裏」の主人公、イエロー・キッドに由来している。一八九五年にニューヨークに進出してきたハーストが「ジャーナル」を買収すると同時に、この人気マンガを「ワールド」から引き抜き、以後両紙が猛烈な部数拡張競争を演じたことから、記者の引き抜き合戦、センセーショナルな紙面作りなどを総称して、〝イエロー・ジャーナリズム〟と言うようになった。

ハーストの作る新聞は、「喉をかき切られて、絶叫しながら街を駆け抜けていく女のようだ」と酷評された。しかし、「記事は凝縮して書け。読者は麦とも み殻を分けている時間がない」と記者たちに檄を飛ばし、徹底したスキャンダリズムと、大量に流入していた移民にも読めるわかりやすい文章とで読者を獲得。一九二〇年代には、米国民の四人に一人はハースト系の新聞を読むまでに成長する。

▲〝新聞王〟ウィリアム・ランドルフ・ハースト（1863〜1951、前列中央）。1927年3月、ハースト家に長年仕えてきた人々と。ハーストの後ろは長男のジョージ。1930年代前半には、26の日刊紙、17の日曜紙を所有した。

そして、このような朝刊紙の競争を第一幕とすると、一九二〇年代のタブロイド版の夕刊紙はさらに性的、猟奇的な好奇心をあおりたて、イエロー・ジャーナリズムの第二幕を演じていた。

実際、過熱する競争のはてに、でっちあげの写真を載せる新聞さえあった。その中で「デイリー・ニューズ」は、〝事実〟を写したこの一枚の写真により、スクープ合戦に圧勝したのである。

美の出会い

「これは花のオーケストラ」草月流の勅使河原蒼風が銀座・千疋屋で第一回展！

昭和三年五月五日から三日間、東京・銀座の千疋屋で、草月流の家元・勅使河原蒼風（二七）が、いけばなの第一回「草月流展」を開催した。赤錆びた焼き芋釜に縞すすきとかきつばたをいけた蒼風の

▲33歳の蒼風。昭和5年には「新興いけばな宣言」に参加、いけばな革新への一歩を記す。

大作を中心に、蒼風が徹底して指導した門下の作品二〇点が出品された。この展覧会を偶然目にした作曲家の山田耕作（四一）は、「これは花のオーケストラだ」と評した。前年の春、蒼風が青山高樹町の借家に「投入花盛花教授草月流」の看板を掲げてから、一年後のことである。

いけばな教授法の改革者である勅使河原和風を父に持つ蒼風は、二〇人ばかりの弟子とともに「より新しい、自由ないけばな」をめざして、父の創設した「日本生花学会」を飛び出し、ひたすら時代にあった新しいいけばなの研究に邁進していた。蒼風が自分たちのいけばな展を開きたいと考えていた時、門下の一人でもあり飲み友達でもある千疋屋の斎藤義一から、「うちを使ってください」という申し出があった。

千疋屋は当時、資生堂アイスクリームパーラーと並んで、銀座名物となっていた日本初のフルーツパーラーである。展覧会の会場として提供された二階は、天井も高くモダンな内装で、蒼風はすっかり気に入った。

場所が決まると、すぐに蒼風はみずから筆をとって手製のポスターを作り、移転した三宅坂周辺の電柱や知人の家の塀などに貼っていった。

蒼風が渾身の思いをこめて発表した第一回展は、しかしながら入場者数の面では、不成功に終わった。三日間ともあいにくの雨にたたられたこともあり、パーラーへの客も少なかったのである。だが、この展覧会をきっかけに、蒼風にとって思いもかけないことが起こった。

大正一四年に放送が開始されたばかりのラジオ放送JOAK（東京放送局）の「家庭講座」出演の話が舞いこんできたのである。たまたま、この展覧会を見にきていた放送局のプロデューサー・大沢豊子は、従来からの伝統的な床の間いけばなや茶席いけばなとは違った、新しいいけばなをみいだし、さっそく出演を依頼してきたのだ。

▲7回連続でラジオ放送された、蒼風の「誰れにも出来る投入花と盛花」のテキスト。

放送に先立って蒼風は、自宅で台本どおりに語り、隣の部屋で妻の葉満が聴きながら花をいけられるかどうかを試してから本番にのぞんだ。放送は二月二日に行われ、予想をはるかに上回る反響を呼んだ。「草月流」蒼風の名は全国に知れ渡り、入門者が急増したのである。

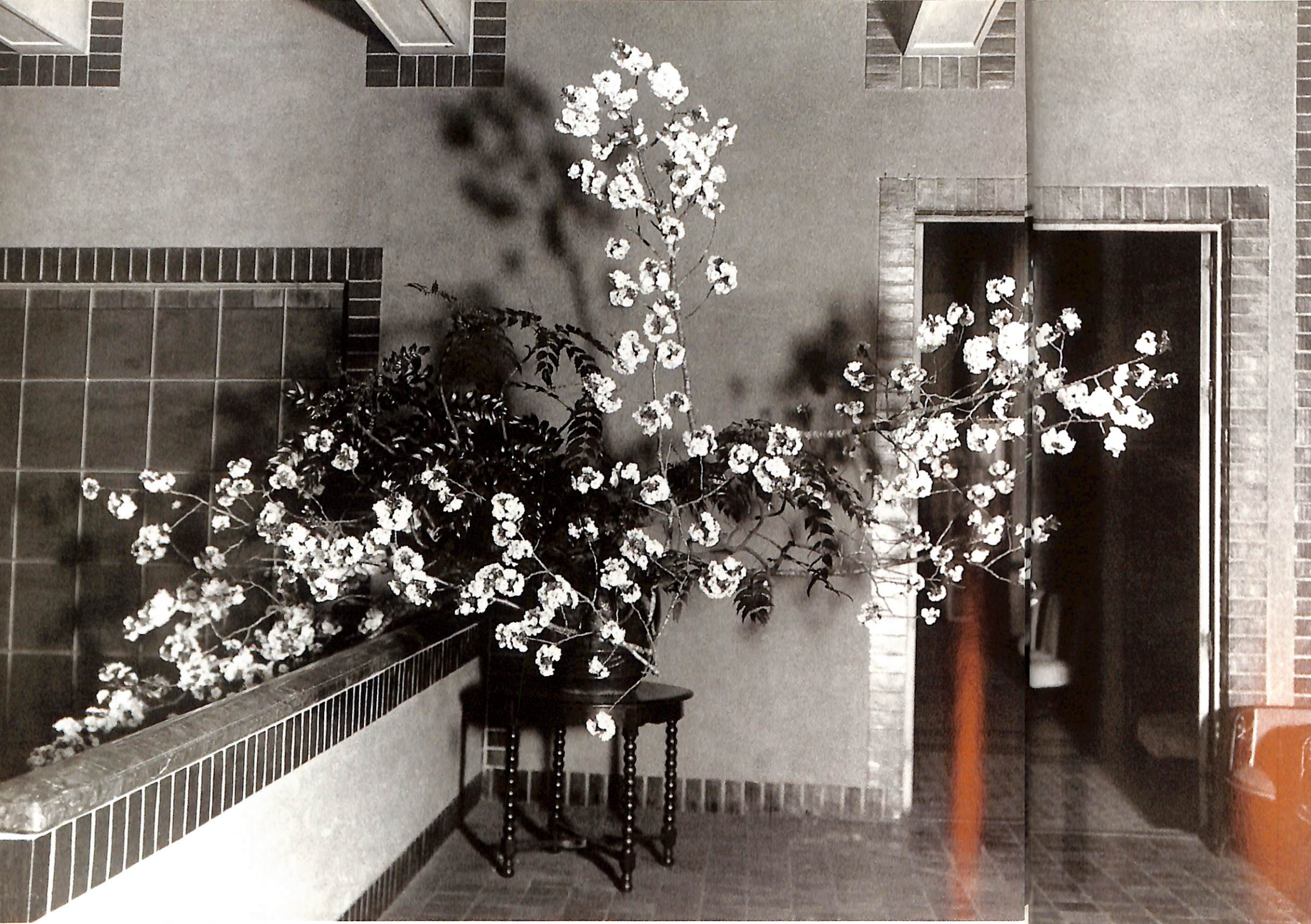
▲昭和3年5月、第1回草月流展が開催された東京・銀座の千疋屋。蒼風や門人たちが、草月流の作品を初めて世に問うた、記念すべき展覧会だった。

第一回展が開かれたのとほぼ同時期に、上野公園で「大礼記念国産振興東京博覧会」が開かれていた。ここでは池坊、遠州流、古流各派など、多数の流派が参加し、花道界空前と言われる「いけばな大会」が催され、にぎわいを見せていたが、草月流は創立したばかりの弱小流派だったため、出品の機会を与えられなかった。諸流に挑戦する結果となった第一回草月流展、およびJOAKへの出演は、新しいいけばなを求める時代の風潮に広く迎えられることになった。

その頃の若い女性の多くは、嗜みとして、また花嫁修業として、お茶やいけばなを習うのは当たり前だった。そういう時代にあって、草月流に人気が集中したのは、蒼風の人柄に負うところも大きかったろう。父・和風のもとにいた時から、「若先生は教えるのが上手」だと、弟子たちの間に人気があったという。

門下だった額田美也さん（現・七四歳）は、草月流に入った動機を語ってくれた。「草月流に入ったのは、当時若い女性にいちばん人気があったからです。蒼風先生はやさしくて、いつもニコニコしていらっしゃった」

父のもとで五歳の頃からいけばなを学んできた蒼風は、一五歳の時には代稽古に立っていた。美術にも強い関心を寄せていた蒼風は、シュールレアリスムの画家・福沢一郎や美術評論家の滝口修造らとも交流を深め、いけばなの世界に常に新風を吹きこんできた。

蒼風は「造形る」という言葉を使って、これを「いける」と読ませた。この言葉が示すように、彫刻などのジャンルを超えて、造形美術の世界全般を圧倒するような活動を続けてきたが、昭和五四年九月五日、急性心不全で死去した。七八歳だった。

▲昭和8年4月、東京・一ツ橋の如水会館で行われた蒼風の第1回個展。入場料2円は、当時破格の料金だったが、開幕前に1500枚の券を売り切った。 草月会資料室（4点とも）

20世紀博物館

東京都水道歴史館

“高きから低きへ”を徹底利用した素朴で合理的なシステムを見る

東京・文京区

桑原茂夫

◀入り口には水を溜めるシンボルとしての木のモニュメントと、東京の水甕とされてきた山口貯水池（狭山湖）の取水塔模型がある。

蛇口（じゃぐち）をひねれば水が出るという、今では当たり前のこととしか感じられなくなった“水道”システムだが、その歴史的背景には、素朴だがスケールの大きいシステム作りがあった。

この東京都水道歴史館は大きく二つのフロアに分かれていて、二階のフロアに足を踏み入れると、時代は一気に江戸時代へさかのぼることになる。

そしてここには、大きな木製の樋（とい）や桶（おけ）のようなものが並んでいる。江戸時代に江戸の水道システムの末端を支えてきた設備の断片であり、町の地下深くに埋められて、人々の生活を文字どおり支えてきた、当のものなのである。

そもそも人口がふえてきた江戸に、遠く多摩川から水を引いてこようと考え、実行に移したのは一七世紀なかばのこと。工事を行った玉川庄右衛門、清右衛門の二人の話は、子ども向けにパノラマで説明されているが、展示された古い図面を見ても緻密で大規模な工事であったことがわかる。とにかく羽村（はむら）（現・羽村市）に堰（せき）を設けて多摩川の水を引き入れ、これを延々とおよそ四三キロにわたって、四谷大木戸（おおきど）まで流したのだからすごい。

しかもその水路は、単純明快、あくまでも高い所から低い所へ向かうものでなければならなかったから、地形や地質の把握と正確な測量が必要だった。羽村の堰から大木戸までの標高差は約九二メートル。フルマラソンのコースがこの標高差で、アップダウンなし、ひたすらダウンのみで作られたと考えればいい。

四谷大木戸から先は、水路はさらに低い所を求めて地下にもぐることになる。ここで用いられたのが、石を組み合わせた石樋（せきひ）や木製の木樋などだ。石樋の構築はコストがかかるので、主要ポイントに限られ、大体は木樋で、この配水管からさらに細かく分岐させる時には竹の樋も用いられた。

かくして、江戸の町の地下深く、井戸のような貯留槽に水はたどり着く。これを近隣の人々が共同で利用するわけだ。汲み上げては、その場で炊事・洗濯をしたり、桶でわが家に運んで飲み水にしたりした。いずれにしても水を使うということは、遠くから流れてきた水を汲み上げたり必要なところへ運んだりする、重労働をともなうものであった。

東京で近代的な水道システムが構築されたのは、明治三一年とされている。淀橋（よどばし）浄水場（現在の新宿副都心）が機能し始めた年だが、この淀橋浄水場は、水が高きから低きへ流れるという法則に基づき、玉川上水の水をむだなく引きこみ、また効率的に配水できる場所として選ばれている。

何かというと電気などの人工的なエネルギーによる現代から見ると、水道とは何とまあ自然の原理や形（地形）を徹底的に利用したシステムだったのかと、その合理性に感じ入ってしまった。

▼江戸時代に地下を走っていた“木樋”の数々と、汲み上げ地点で水を溜めていた井戸。

▼館外に復元設置された、石でできた水路、“石樋”。もちろん、地中を走る頑丈な水路だった。

▲川を渡る上水は、“懸樋（かけひ）”という樋の中を流れていった。これは神田上水の、現在の水道橋付近を渡る懸樋の模型。

●**東京都水道歴史館**
東京都文京区本郷二―七―一
☎〇三―五八〇二―九〇四〇
JR御茶ノ水または水道橋駅下車、徒歩八分
開館時間＝九時半～一六時半
休館日＝年末年始
入館料＝無料

総経費1976万円、1年間続いた奉祝行事
“開国”以来のスケールで繰り広げられた
昭和の「即位大礼」挙行！

▲11月7日、京都に着かれた天皇は、6頭立ての馬車で御所に向かわれた。沿道は約60万人の人垣で埋まった。 毎日新聞社

田中義一首相の発声にあわせ、大礼の行われた京都御所はもとより、東京の宮城前広場や明治神宮、そして日本中に万歳がこだました。昭和天皇の即位大礼のクライマックス、「紫宸殿の儀」である。風雲急を告げる内外の動きの中で、「即位大礼」は、ほぼ一年間にわたり繰り広げられた。

分刻みで行われた「即位大礼」の一日

昭和三年一一月一〇日、「即位大礼」のスケジュールはまさに分刻みであった。

京都御所で行われた「賢所大前の儀（かしこどころおおまえのぎ）」は、午前七時に、列席する第一陣の係官が入場し、続いて高等官、さらに勲（くん）一等以上の高官が続く。九時五五分に天皇・皇后が学問所から、宜陽殿（ぎようでん）を経て、春興殿（しゅんこうでん）の扉が開き、九時三〇分に春興殿に入られた。宜陽殿などはいずれも賢所の一部である。天皇（二七）は黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう）、皇后（二五）は五衣（いつつぎぬ）・唐衣（からごろも）・御裳（おんも）姿だった。各宮は賢所春興殿の西側に控え、各妃は同じく東側に控えていた。一〇時八分、天皇が御告文（ごこうもん）を読まれた。これは皇室の祖先に対し、皇位を継承するむねを報告する儀式である。そして、[illegible]分、天皇が、三〇分、皇后が退出され、参列者が一斉拝礼して、賢所大前の儀が終了したのである。参列者は田中義一（きいち）首相（六四）はじめ、[illegible]人であった。

さらに午後は「紫宸殿（ししんでん）の儀」が行われた。天皇の勅語下賜（かし）、総理大臣の寿詞（よごと）、万歳三唱などだが、午前の「賢所大前の儀」に対し、「紫宸殿の儀」は、国民・

▶大阪、北浜2丁目を行く奉祝の花電車。全国各地、また海外の移民や居留民たちの間でも、さまざまな奉祝の催しが盛大に行われた。
辻口文三

般に即位を宣するものである。天皇は「永く世界の平和を保ち、あまねく人類の福祉を益さんことをこいねがう」と勅語を読まれた後、首相の発声で全員が万歳を三唱して、この日の儀式は終了した。

昭和三年は「即位」に明け、「即位」に暮れた年だった。一月一七日の「期日奉告の儀」に始まり、「斎田点定の儀」「御鍬入式」「御田植式」と、農耕民族ならではの儀式が続いていた。

そして一一月の即位大礼となった。旧皇室典範では即位大礼は、大嘗祭とともに秋冬に、京都で行うと規定されていたのである。

行幸は皇室行事として、"開国"以来のきらびやかさだった。宮城から東京駅に向かう行列は、全長五九四メートルにもおよび、紅白の旗をはためかせた騎兵一五〇騎、供の人々は三百余人。早朝の沿道を、二万人の兵士と、一〇万人を超える群衆が埋めつくした。英「タイムズ」紙の特派員は「これほど美しい観ものは、国家の儀式としても珍しい」と伝えている。

即位大礼は市民生活にも、少なからぬ影響を与えた。大嘗宮をはじめ御所の特設郵便局にいたるまで膨大な施設が新築されたためか、京都では物価がみるみる上昇。一一月に入り、土木建築工賃をはじめ、畳工、菓子工などの賃金が約四割高騰し、たとえば、京都土産の袋物類は、実に倍以上の値上がりを記録した。

天皇と青年たちの絆を強靭にした分列行進式

儀式はその後も続いた。「賢所御神楽の儀」「鎮魂の儀」「大御饌供進の儀」「奉幣の儀」と続き、一一月一四日から一五日にかけ「大嘗祭」が行われた。「大嘗祭」は即位の儀式の中でも最も重要なもの。通常は、収穫に感謝する「新嘗祭」と言われるが、即位後最初のものを、特に「大嘗祭」と呼ぶ。この儀式を経ない天皇は「半帝」と呼ばれ、一人前と認められないほどだった。「大嘗祭」は「悠紀殿の儀」「主基殿の儀」などからなり、女官が米を搗き、稲舂歌、近江・筑紫の風俗歌の演奏の後、「御親供の儀」と「御直会の儀」が夜を徹して行われる。参加を希望した幾人かの老臣が、「お歳なので、万一があっては不敬」と泣く泣く辞退させられたという。

同月一六日の「大饗第一日の儀」と並行して、全国各地で、有力者約二〇万人を招待する祝宴も開かれた。一七日以降もさまざまな儀式が行われ、天皇・皇后が帰京したのは二七日。三〇日の「皇霊殿・神殿親謁の儀」をもって、皇室の公式の全儀式を終了した。総経費は一九七六万円。これは現在の約二七〇億円に相当する。「平成」の「即位礼」（約六九億円＝警備費をのぞく）と比較しても、その規模の大きさがうかがわれる。

「この即位大礼は、空前絶後のスケールを持っていました。明治天皇の即位は、徳川政権下でもありきわめて簡素でした し、今上天皇の場合は、宗教的色彩の濃い儀式は天皇家の私的行事として、政教分離で行われたからです」（皇室ジャーナリスト・河原敏明氏）

公式行事が終わっても、奉祝行事はまだ続く。大礼から約一ヵ月後の一二月一五日、師走の冷たい雨が降りしきる宮城前広場では、少年団・学生・生徒ら七万四〇〇〇人の若人が外套の襟を立て、天皇を待っていた。御大典記念の大分列行進が予定されていたからである。ところが定刻の二時近くになって、式場正面、玉座のテントが取り払われた。

中止か——。そんなどよめきの中、伝令が飛んできた。天皇は「青年たちは朝から濡れているのだ。どうして自分だけが天幕の中に立っていられるか」と、テントを取りのぞくよう指示したという。

これを耳にした青年たちは、一斉に外套を脱ぎ去った。やがて定刻となり、壇上にのぼった天皇は、マントを脱いだ青年たちを見るや、みずからもマントを脱ぎ捨てたのである。参列した軍人や大臣も、あわててそれにならった。冷雨の中、まさに劇的な光景であった。

大正天皇は、病弱に加えて、しばしば奇行がささやかれた。議会の開会式で、勅語書を丸めて議場を見渡した「勅語眼鏡事件」は、厳重な箝口令にもかかわらず広く国民に知れ渡っていた。さらに、"沈滞"の大正に対し、"栄光"の明治と評されてもいた。それだけに国民は新天皇の登場に大きな期待をかけていた。

しかし、その後の国民と昭和天皇を待っていたのは、軍部の台頭であり、無謀きわまりない戦争への道だったのである。

▲全国の80歳以上の高齢者には、大礼の喜びを分かち合うとの趣旨から、天盃と酒肴料が下賜された。
毎日新聞社（下一点とも）

▲木の皮をつけたままの黒木造りの大嘗宮をはじめ、大礼施設の新築のため、京都には膨大な数の用材が続々と運びこまれた。

▲「紫宸殿の儀」の天皇・皇后の装束。天皇は束帯に、黒地に菊花紋の冠。皇后は宮廷婦人の正装である十二単で、手には檜扇を持たれた。

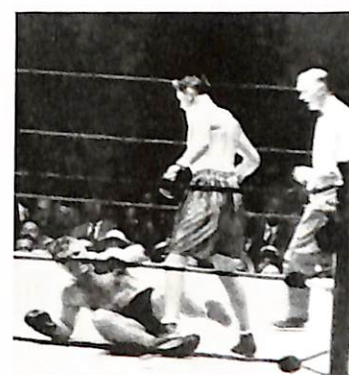
▲11月14日の夜から15日早暁にかけて、大嘗祭が行われた大嘗宮。悠紀殿の儀が宵のうちに、主基殿の儀は午後11時から行われた。 朝日新聞社

7~8月

フォト+日録で再現する366日

◀**電灯料争議、紛糾(7月28日)**前年来、富山県東部住民が富山電気に値下げを要求。消灯運動を起こした西水橋町では、電球1400個を集め、会社へ突き返した。

▼**独飛行船「ツェッペリン伯号」完成(7月8日)**写真は命名式で挨拶する設計者・エッケナー。翌年8月、世界一周の途上、霞ケ浦に巨体を休め、日本人を仰天させた。

▼**市電衝突で死傷者34人(7月3日)**東京牛込区の大曲分岐点で、満員電車の側面に回送車が衝突、満員電車は横転した。ブレーキ故障で早稲田車庫に向かう途中の回送電車は、非常ブレーキさえ、錆びついてきかなかった。市電当局は事後処理も怠惰な対応を繰り返し、非難をあびた。

▲**ジーン・タニー、KO勝ち(7月26日)**ニューヨークで行われた世界ヘビー級選手権で、強敵トム・ヒニーを圧倒。11回、レフェリーストップでデンプシーから奪った王座を防衛。

木挽社提供

◀▲**雑誌「女人芸術」創刊(7月)**劇作家・長谷川時雨が主宰、かつての「青鞜」社員がブレーンになり、女性が執筆・編集、女性を対象にした。林芙美子の『放浪記』はここから生まれた。写真上は中心メンバー。前列中央が長谷川、その左・林、右端・円地文子。

▼**新・数寄屋橋、完成(7月14日)**盛大に開橋式を挙行。近くの朝日新聞社屋と照応させた意匠が特徴で、鉄筋コンクリートの斬新なアーチ式になった。全長39メートル。

共同通信社

昭和3年7月

1(日)●中山晋平作曲・野口雨情作詞「波浮の港」発売。
●東京で白米販売の計量不正を防ぐために升目売りからグラム売りとなる。

2(月)●東京市営バスの女性車掌、男女差別撤廃嘆願。
●英議会、平等選挙法(男女二一歳以上)可決。

3(火)●未設置の道府県警察部に特高課を設置。
●東京の大曲で市電に回送車衝突。三四人死傷。

4(水)●拳銃、仕込杖などの製造販売が許可制となる。

5(木)●大阪市で灯火管制演習。午後八時、全域で消灯。

6(金)●警視庁、満鉄社債偽造団二五人を逮捕。

7(土)●中国国民政府、不平等条約改訂を宣言。

8(日)●六万坪の武蔵野森林公園候補地を専門家視察。

9(月)●鶴のマークの商標登録を却下された銀座・松屋の抗告審、原決定を破棄し差し戻し。

10(火)●銀行の土曜半休実施。平日は三時半まで延長。

11(水)●丙午生まれを夫に知られた妻が猫いらず自殺。

12(木)●嵐寛寿郎主演「鞍馬天狗」封切。

13(金)●霞ケ浦飛行隊の五一機、日本初の空中検閲。

14(土)●鉄筋になった東京・数寄屋橋、開橋式。

15(日)●豊橋の病院で入院患者一七人がチフスに感染。

16(月)●普選後初の東京府会が議長選で混乱、乱闘に。
●第一次山東帰還兵、中国・青島を出発し帰国へ。

17(火)●モスクワで第六回コミンテルン世界大会開幕。

18(水)●国債が一年で六億三〇〇〇万円激増と新聞に。

19(木)●中国国民政府、日華通商条約の廃棄を通告。
●矯風会など、婦人雑誌の性愛記事取締り請願。

20(金)●第一回汎太平洋婦人会議日本代表団(吉岡弥生、市川房枝、井上秀子ら二一人)、出発。
●東京自動車組合、均一料金の「円タク」を廃止しメーター制と時間制を採用と決定。

21(土)●パリ国際水泳で日本が一種目のぞき一位。

22(日)●無産大衆党(書記長・鈴木茂三郎)、結成。

23(月)●北海道美深町で大火。役場ほか五〇〇戸焼失。

24(火)●司法省、思想係検事を設置。

25(水)●富山電気、値下げ調停拒絶し断線決行を宣言。
●中国、米と関税条約調印し関税自主権を回復。

26(木)●坪内逍遥訳の『沙翁全集』完成を記念し、築地小劇場で「真夏の夜の夢」を上演。

27(金)●東京・日比谷署、示談金めあての「自動車轢かれ業」の男二人を取り調べ。

28(土)●アムステルダム五輪開幕。日本選手団五四人。

29(日)●警視庁、恐喝常習の右翼一掃に向け検挙開始。

30(月)●高専野球争覇戦で同志社が横浜工破り優勝。

31(火)●豪雨のため中央本線でトンネル崩壊続出。

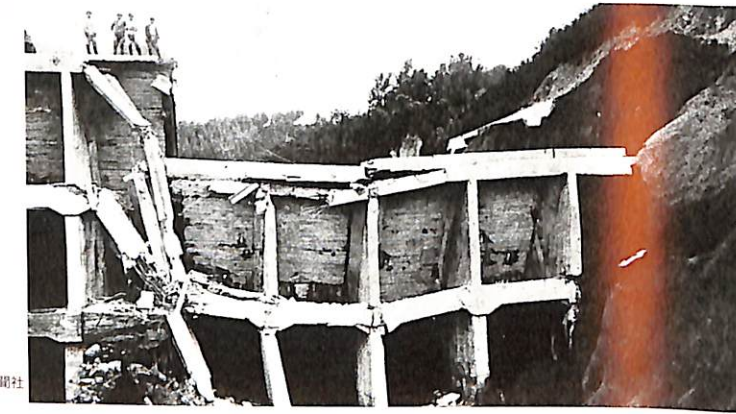
朝日新聞社

▲**日本初のトロリーバス走る(8月1日)**兵庫県の新花屋敷温泉土地株式会社が、花屋敷—新花屋敷間2キロで運行。長さ5.4メートル、定員28人で2両編成。「無軌条電車」と呼ばれた。

◀**「三文オペラ」大ヒット(8月31日)**ベルリンで初演。ブレヒトがブルジョアの悪を風刺する台本を書き、ワイルがジャズを導入。写真はフィナーレの場面。

▶**不戦条約に15ヵ国調印(8月27日)**紛争解決は平和的手段のみ、と戦争を否定する、ブリアン仏外相、ケロッグ米国務長官が提案の条約。パリに各国代表が集合、写真は署名する日本全権・内田康哉。

影山光洋

山陽新聞社提供

▲**モガが行く(8月)**米国のシネモード・スタイルそのままのモダンガール(モガ)が、銀座通りを闊歩。ダンスに酔って映画を語る彼女たちの意識と行動は、良識派の驚異だった。

▶**小諸で貯水池決壊(8月29日)**長野・東信電気会社所有の貯水池で、堤防が破裂。付近の民家7棟を鉄砲水が襲い、死者・行方不明7人を出した。安価な火山灰の堤防が原因。

◀**特高、拡充強化(7月3日)**内務省警保局に保安課を新設、特高警部・刑事1650人を増員して全国道府県に配備、全国網を完成した。写真は、岡山県警に新設された特高課。

朝日新聞社

昭和3年8月

1(水)●兵庫県花屋敷で日本初のトロリーバス開業。
●二代目市川左団次、モスクワで歌舞伎公演。
●文部省、第一回思想問題講習会を実施。

2(木)●五輪の陸上三段跳びで織田幹雄、優勝。

3(金)●慶大野球部、三ヵ月の米国遠征から帰国。

4(土)●前年一〇月米国へ密航した七人、強制送還。

5(日)●東京市で庶民向け低利の質庫信用組合が開業。

6(月)●ソ連、一二漁場での日本漁獲量引き上げ認可。

7(火)●樺太で腐敗タラバガニから百数十人が食中毒。
●国際陸連、女子に苛酷と陸上八〇〇㍍を廃止。

8(水)●五輪の水泳二〇〇㍍平泳ぎで鶴田義行が優勝。

9(木)●五〇銭の組合規定に反し二〇銭で営業して検挙された東京市の理髪業者に無罪判決。

10(金)●大東京建設で七〇〇万人供給の水道計画成る。

11(土)●東京市会での魚市場移転にからむ贈収賄発覚。

12(日)●日本借家人組合、結成。

13(月)●東京府下砂町町民、硫酸会社設立反対を陳情。

14(火)●警視総監が四ヵ所の二業地新設許可との報道に矯風会・廓清会が反対運動の方法協議。

15(水)●比の漁民大会、マニラ湾漁業日本独占に反対。

16(木)●全国中等学校優勝野球大会を甲子園から関東に中継放送。日本初の遠距離無線中継。

17(金)●東京・浅草観音裏で浮浪者四〇八人強制収容。
●京成電車乗り入れ東京市会疑獄で摘発開始。

18(土)●医博・宮下左右輔前夫人の秋子、イタリア滞在の声楽家・藤原義江を追って渡欧。

19(日)●満鉄副社長・松岡洋右の密輸、下関税関で発覚。

20(月)●大礼警備の警官延べ三三万二〇〇〇と新聞に。

21(火)●大阪府、日本初の公認自動車市場開設を認可。

22(水)●中等学校野球大会で松本商業が優勝。

23(木)●青森県の石川堰分水問題で農民一万人が衝突。

24(金)●東京・荏原町町長、二業地新設反対演説会への暴力団介入をおそれ町の会場使用を拒否。

25(土)●元慶大野球部投手、入営中に母危篤の偽電報を打たせて早慶OB戦に出場(軍法会議に)。

26(日)●登山家・浦松佐美太郎、アルプス最難峰のウエッターホルン西尾根を征服。

27(月)●パリ不戦条約(ケロッグ・ブリアン条約)調印。
●朝日新聞社による日本初の航空旅客輸送成功。

28(火)●日本不動産取引所の設立決定。
●「東京日日新聞」に初めて電送写真が掲載。

29(水)●警視庁、腐敗肉販売する不正肉屋を多数検挙。

30(木)●埼玉県訓導・福安鉄一、樺太—東京間を走破。

31(金)●ベルリンでブレヒト作「三文オペラ」初演。

SCIENCE PHOTO LIBRARY／PPS

▲フレミング、ペニシリン発見(9月30日)アオカビがブドウ球菌の繁殖を停止させることに着目、抗生物質第1号を抽出。その革命的薬効は、13年後に確認された。写真はロンドン大学の付属医学校で。

▲殷墟発掘(10月13日)中国・河南省安陽で第1次作業開始、31日までに多数の甲骨文字を発見した。1937年まで15回の発掘が行われ、歴代王の大墓などから、殷王朝の強大な権力が明らかになった。

▲秩父宮雍仁(26)、結婚(9月28日)妃は駐米大使・松平恒雄の長女で「平民」の勢津子さん。恒雄は会津藩主・松平容保の四男で、戊辰戦争以来の会津藩との和解とも言えた。

朝日新聞社

▲測定装置車、試運転(9月15日)仙台鉄道局が製作。前方障害物の有無を検査。陸軍特別大演習行幸のため盛岡を訪問する、天皇の御召列車の安全通行をはかった。

▶早大演劇博物館が開館(10月27日)坪内逍遙の「シェークスピア全集」40巻の翻訳完成と古希を記念。発起人・渋沢栄一。英国風の外観と3万冊の演劇関係書を誇った。

朝日新聞社

松竹提供

▶浅草に東京松竹楽劇部誕生(10月12日)前年、宝塚がレビュー「モン・パリ」で成功したのに刺激され、大阪・松竹合名社の白井社長が企画。第1期生は水の江滝子ら。

「警視庁百年の歩み」(2点とも)

▶「ピス平」逮捕(9月12日)3年前全国を騒がせた、ピストル強盗「ピス健」を彷彿させ、犯人の中村一平(中央)がこう呼ばれた。中村は警官一人を射殺。大捕物のすえ、上野公園で御用。

昭和3年9月

1(土)●曽我廼家十吾・二代目渋谷天外らの松竹家庭劇、大阪・角座で第一回公演。

2(日)●福島県二本松町で丙午生まれの女性三〇人が迷信打破の演説会を開催。

3(月)●東京市営食堂の腐敗牛乳販売で警視庁が警告。

4(火)●海軍、藤倉工業製落下傘の初降下実験を実施。

5(水)●日ソ、北樺太石油購入契約に調印。

6(木)●上海法院、日本人が原告の訴訟は条約問題解決まで延期と通告。

7(金)●民政党三議員、憲政一新会の設立を宣言。

8(土)●石川島造船所で陸上機不時着水試験を開始。

9(日)●東京市所有の不用な土地は四二万坪と新聞に。

10(月)●東京・下落合で巡査射殺事件(12日犯人・中村一平逮捕、ピス平事件)。

11(火)●国語調査会、電信の濁音は一字と計算と決議。

12(水)●朝鮮北部の豪雨、死者・不明一〇三三人と判明。

13(木)●代々木―千駄ケ谷間で満員の省線電車が転覆。
●阪神間で阿片大量密輸出摘発、九二貫押収。

14(金)●東京市会疑獄の黒幕、政友会の中島守利検挙(19日読売新聞社社長・正力松太郎収監)。

15(土)●民政党、不戦条約の「人民の名に於て」の一句は日本の国体と相容れないと声明を発表。

16(日)●東京・埼玉県境の新荒川大橋、開通式挙行。

17(月)●秩父宮の婚約者・松平節子、皇太后と同字名のため「勢津子」と改名。

18(火)●国際連盟、日本など遊廓保存国の調査を決議。

19(水)●ディズニー製作の初のトーキーアニメ、ミッキーマウスの「蒸気船ウィリー」完成。
●横浜・泉谷寺の「山桜の図」、安藤広重作と判明。

20(木)●大礼記念京都博覧会、開幕。

21(金)●国民政府、済南事件報告の国際連盟提出中止。

22(土)●警視庁、防腐剤ナフトールを多量に含む公営食堂の醤油一五〇〇樽を発売禁止とする。

23(日)●米の東海岸から胴枯病に強い岩手県のシバ栗四斗が移植用に注文される、と新聞に。

24(月)●ロンドンで世界燃料会議開催。四七ヵ国参加。

25(火)●初の大規模空中戦闘演習、東海三県で実施。

26(水)●東京市会疑獄で民政党の三木武吉、召喚。

27(木)●列車逆行で右手を切断された幼児の父、小川平吉鉄道相に一万円の損害賠償を請求。

28(金)●秩父宮雍仁、松平勢津子と結婚。
●仙台のエビ中毒で患者二一〇人、死者二〇人。

29(土)●中学校英語教員会、授業時間減少反対を決議。

30(日)●ラジオ聴取契約者数が五〇万を突破。

証言・あの日この日
小林秀雄(26)

7月13日(金) 〈葉書有難う。／毎日暑くて閉口だ。朝早く起きる癖をつけ様と思つてゐるのだがどうも駄目で昼頃目をさます、夜になるまで暑くて何にも出来ない、一つ大きなものを書きたいのでこま〳〵した原稿は少しこまるな、／九月に式をあげる相だね。二人は必度うまく行くだらう〉(高見澤潤子『兄　小林秀雄』)

翌年、批評家として華々しいデビューを飾ることになる小林秀雄は、この年、長谷川泰子との同棲生活から逃げ出して、関西で放浪生活をしていた。妹から婚約通知が届くと、さっそくこの日返事を書く。妹の結婚相手は、後にマンガ「のらくろ」の作者となる田河水泡。一方、小林自身もこの頃、批評家として世に出る決意を固めていた。「大きなもの」とは、翌年「改造」の新人賞に二席で入選する「様々なる意匠」のことであった。(山崎行太郎)

▼川喜多長政(25)、東和商事設立(10月10日)東京・丸ノ内の海上ビル7階に事務所をオープン。米映画主流だった日本に、独・仏など欧州から、芸術性の高い映画を輸入し始めた。前列左から3人目が川喜多。

川喜多記念映画財団提供

「イリュストラシオン」

▲新エチオピア王誕生(10月7日)ザウディッツ女王の摂政、ラス・タファリ(36)が王の意のネグスの位に就任。左は王妃。1930年に皇帝のハイレ・セラシエ1世となった。

朝日新聞社

▲平安神宮に日本一の大鳥居(10月12日)明治28年創建、京都市左京区にある桓武天皇を祀る官幣大社に新名所。高さが約24メートルもあり、柱の直径は約4メートル。

朝日新聞社

▶全国で御真影伝達式(10月2日)大礼を控え、宮内省が文部省を通じて全国の小・中学校に、天皇・皇后の写真を下賜、その式典が各道府県で行われた。写真は神奈川県庁で。

昭和3年10月

1(月)●陪審法施行(23日大分地裁で初の陪審裁判)。
●大島英三郎、天皇に無産者の救済を直訴。
●ソ連、第一次五ヵ年計画を開始。

2(火)●東京府下四二三校への「御真影」伝達式挙行。

3(水)●平凡社、雑誌「平凡」を創刊。
●東京市、前年の伝染病一位は腸チフスと発表。

4(木)●米不足の予想が豊作と発表され、東京米穀商品取引所、市場混乱し立ち会い停止。

5(金)●東京で京成電車とトラック衝突。四〇人死傷。

6(土)●渡辺政之輔共産党書記長、台湾・基隆で警察官に追いつめられピストル自殺。

7(日)●日本労働総同盟全国大会。スト基金積立へ。

8(月)●蔣介石、中国国民政府主席に就任。
●京都の染織家・龍村平蔵、正倉院御物の織物の複製に成功し第一回披露会を開催。

9(火)●福島県のカツオ漁船四隻、消息絶つ。

10(水)●国産初の旅客用EF52形電気機関車完成。

11(木)●大阪美術クラブで川崎男爵家の大売り立て。最高は牧谿「達磨」で一二万円強。

12(金)●東京松竹楽劇部設立。水の江滝子ら入部。
●平安神宮に日本最大の大鳥居が完成。

13(土)●マキノ正博監督「浪人街」封切。
●中国で第一次殷墟発掘作業が始まる。

14(日)●入江稔夫、二〇〇㍍背泳ぎに世界新記録。

15(月)●マレーで捕獲の珍獣バク、浅草・花屋敷に移送。

16(火)●高知の潮江天満宮で火災。本殿・拝殿など全焼。

17(水)●山形天童地方の農民、サイパンなどに出稼ぎ。

18(木)●日独親善の独機、悪天候で多摩川に不時着。

19(金)●警察殉難者救慰百万円基金制度を実施と発表。

20(土)●一人当たり平均年収は二二四円と内閣統計局。
●日本航空輸送、設立。

21(日)●ワイズミューラーら招き大阪で国際水泳大会。

22(月)●中国の天才少年棋士・呉清源、神戸着。

23(火)●東京野方町の医師宅に説教強盗(犯人・妻木松吉は翌年2月に逮捕)。

24(水)●保険金かけ実弟二人殺害の男を姫路署が逮捕。

25(木)●北海道稚内町で大火。七〇五戸が焼失。
●日本商工会議所、金解禁即時断行を決議。

26(金)●中国の名優・韓世昌、新橋演舞場公演で来日。

27(土)●早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、開館。

28(日)●全国廃娼デー。一二万人が廃娼の請願署名。

29(月)●名古屋地裁、「三・一五事件」公判を公開。

30(火)●文部省、思想問題に対処する学生課を新設。

31(水)●東京・蒲田で二等列車の窓を弾丸二発直撃。

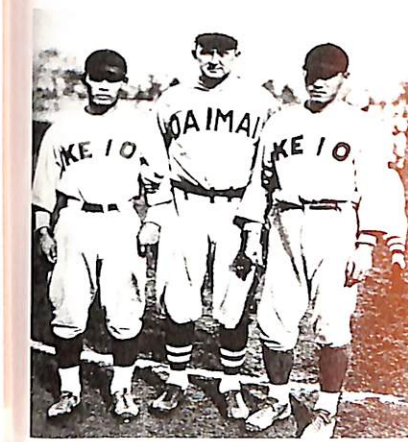
▲米大統領にフーバー（11月7日）民主党候補に圧勝。楽観的繁栄主義と、人気のあったクーリッジ前政権下で商務長官だった実績が受けた。写真はホワイトハウス前の新・旧大統領。右がフーバー。

▲ラジオ体操始まる（11月1日）午前6時から30分放送。指導員は陸軍戸山学校軍楽隊楽長・江木理一少尉（写真右）。体操図解90万枚を配布し宣伝につとめたこともあり、驚異的な普及をとげた。

▶トルコがラテン・アルファベット文字を導入（11月3日）1923年に大統領に就任した、ケマル・アタチュルク（写真）の近代化政策の一環。アラビア・ペルシャ文字表記法を、簡便なものに改めた。

「イリュストラシオン」

▶無産党代議士、御大典に参列（11月10日）京都で天皇の即位大礼挙行。田中義一首相が寿詞を述べ、参列者全員が万歳三唱。その中に、社会民衆党代議士の姿もあった。写真は礼装の支度に余念がない、右から鈴木文治、西尾末広と党首・安部磯雄。

朝日新聞社

▶新首相官邸が完成（11月29日）東京・永田町の旧鍋島邸跡に、建築家・ライトの様式を取り入れたモダンな2階建て（一部3階）が誕生。延べ面積5175平方メートル。塔屋に知恵の象徴、フクロウが彫られた。

◀タイ・カップ来日（11月2日）タイガースなどで首位打者12回を獲得した元大リーガー（41）が、早・慶・明3大学の野球コーチのため、審判・選手ら25人で横浜到着。写真右は慶大・宮武投手、左が岡田捕手。

昭和3年11月

1（木）●ラジオ体操、東京で放送開始。
2（金）●米球界のタイ・カップら、早・慶・明の大学野球コーチとして来日。
3（土）●警視庁、大礼控え一〇〇〇人を事前検束。
●米、中国国民政府を承認（12月英仏も承認）。
4（日）●東京六大学野球で慶大が全勝優勝。
5（月）●日本放送協会、仙台―熊本間専用中継線が完成し、初の全国中継放送を行う。
●朝日新聞社社屋で流動式電光ニュース開始。
6（火）●陸上輸送の監督権、逓信省から鉄道省に移管。
7（水）●米大統領選で共和党のフーバーが当選。
8（木）●江戸期の勤王家・高山彦九郎の銅像が京都・三条大橋に完成し除幕式。大礼記念のひとつ。
9（金）●ハリウッドで日舞を教えた日野もと子、帰国。
10（土）●天皇の即位大礼、京都御所で行われる。
●ダンスホール取締令実施。一八歳未満は禁止。
●鈴木伝明主演「陸の王者」封切。
11（日）●奉祝中等野球で高松中が和歌山中を破り優勝。
12（月）●英大型客船「ベストリス号」、大西洋で沈没。
13（火）●独からの賠償金を列国と同様減額と閣議決定。
14（水）●京都で大嘗祭。汽笛以外の鳴り物禁止。
15（木）●伊でファシスト大評議会が正式の国家機関に。
16（金）●大饗第一日の儀、千五十余人の参列者。
17（土）●日光・湯元温泉で出火、温泉街がほぼ壊滅。
18（日）●憲政一新会と独断で提携した久原逓相に与党内で反発強まり、総裁・幹事長ら幹部が懇談。
19（月）●東京女子師範・第二高女で校長排斥集会開催。
20（火）●全国海運業組合連盟、創立。
21（水）●空母「加賀」乗員に赤痢続出、二〇〇人が入院。
22（木）●大阪地裁で「三・一五事件」被告が革命歌高唱。
23（金）●札幌郊外に世界的ジャンプ台建設、大倉喜七郎が経費負担と新聞に（大倉山シャンツェ）。
24（土）●水上競技連盟、神宮外苑にプール建設と決定。
25（日）●風俗研究家の今和次郎、日本橋・三越でデパート客の調査。
●山形地裁の義父殺し事件陪審裁判で無罪判決。
26（月）●天津反日会、商店から日本製品多数を没収。
27（火）●第一回プロレタリア大美術展、上野で開幕。
28（水）●高柳健次郎、ブラウン管受像方式によるテレビジョンの公開実験。
29（木）●新首相官邸、旧鍋島邸跡地に完成し移転。
●大礼の特赦減刑八六六二人の手続き終了。
30（金）●和歌山県和佐村（現・和歌山市）の高積神社から唐・宋時代の中国古銭一万枚が発見される。

▲神田青果市場、完成（12月）東京市が、市の台所として山手線・御徒町駅近くに建設。建坪6053坪。独・ミュンヘンの中央市場に建築様式をとった、モダンな建物だった。

▼高山彦九郎像が完成（11月8日）即位大礼を控え、京都御所を伏し拝む江戸末期の尊王論者の銅像が、三条大橋に完成。床次竹二郎、頭山満らが列席、除幕式を行った。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲天才少年、呉清源来日（12月6日）10月、日本棋院に入るため中国から神戸へ。この日、犬養毅らが東京の松本亭で、碁会を開いた。1936年、日本に帰化。

▼張学良、蔣介石の国民政府に合流（12月29日）張学良は父・張作霖の後を継いだが、奉天軍閥の対日妥協路線を放棄、東三省に青天白日旗を掲揚した。

PANA通信社

毎日新聞社

▲宮崎市騒擾事件起こる（12月15日）女子師範の都城市への移転を利権がらみとする反対派が、議場や知事官邸に消防ポンプで放水、鳶口で破壊するなど大暴れ。結局、移転案は可決、163人が起訴。

▼大礼特別観艦式を実況中継（12月4日）横浜沖に艦艇200隻が集結、約100万人が見物、その模様を前月開始の7局を結ぶ全国ネットで放送した。写真は、東京放送局が供奉艦「比叡」で行った中継風景。

NHK提供

昭和3年12月

1（土）●東大図書館、米・ロックフェラーの寄付で落成。
2（日）●九州横断の豊肥本線、開通式を挙行。
3（月）●東京の地下鉄乗務員、初のスト実施（～14日）。
4（火）●雑誌「朝日」（博文館）創刊。題字・東郷平八郎。
5（水）●ILO事務局長来日。左派労働団体は反対。
6（木）●新交響楽団、初のレコード録音を行う。
●埼玉県会、公娼制度廃止を満場一致で可決。
7（金）●東京女子大生六人、共産党準備の秘密結社員の疑いで召喚。
8（土）●早明ラグビー戦で明治が早稲田に初勝利。
9（日）●四六府県の犯罪検挙率一位は福岡県と新聞に。
10（月）●東京市衛生試験所、市民血液検査デーの結果、梅毒陽性者は一五二六人中二四七人と発表。
11（火）●日本医師会、「劣種」の断種奨励を内相に答申。
12（水）●シャム（現・タイ）公使館付武官の陸軍大尉、同国人で初めて日本の陸軍大学を卒業。
13（木）●ガーシュイン作曲「パリのアメリカ人」初演。
14（金）●東京・新宿に映画館「武蔵野館」が開館。
15（土）●宮崎市民一万人、女子師範学校の都城移転に反対し、県会議場・知事官舎を襲撃。
16（日）●暴風の北太平洋で英船乗員七五人を救助した「陽元丸」、横浜帰港。
17（月）●東京瓦斯従業員スト。全市でガス供給不足。
18（火）●徳島県で東洋一長い吉野川橋の開通式挙行。
19（水）●日本蓄音機、ラミネーテッド盤レコード発売。
20（木）●日本大衆党結成。日本労農党など中間派合同。
●阿蘇山、明治三〇年以来の大爆発。
21（金）●市議二五人が勾留の東京市会に解散命令。
●経済審議会、金輸出解禁断行の答申案決定。
22（土）●新労働農民党（議長・大山郁夫）結成（24日解散命令、河上肇ら検束）。
23（日）●この年の映画出演最多は田中絹代、と新聞に。
24（月）●利根川河口にゴンドウクジラの大群、出現。
25（火）●日本労働組合全国協議会（全協）全国大会。
●この年の貿易収支は二億円余の入超と大蔵省。
26（水）●米・フリーア社がチューインガムを試験販売。
27（木）●中国の関税自主権未承認国が日本のみとなる。
28（金）●大山郁夫、非合法の政治的自由獲得同盟結成。
29（土）●張学良、国民政府に合流。青天白日旗を掲揚。
●久原鉱業、日本産業（社長・鮎川義介）に改称。日産コンツェルンの中核となる。
30（日）●伊勢への初詣での列車寝台券完売、と新聞に。
31（月）●日銀兌換券発行高約一七億七〇〇〇万円で大正一一年を抜く新記録。

俄楽多市

流行語 暗い時代の軽薄少女

「フラッパー」。モガの一種で、フラフラしていて〝ハスっぱ〟な女性。ボーイッシュなスタイルと明るさ、軽薄さが特徴。世間からはモガの中でも不良少女のことみなされたが、震災以来続く不景気風に反発し、わざと軽薄な行動に走っていた面も見逃せない。

「弁士中止」。演説の途中、不穏当な発言があったとして、警官が演説を止めさせる時に発する言葉。二月に初の普通選挙(二二六㌻参照)が行われることになったが、政府は政敵への露骨な選挙干渉を行って「弁士中止」を乱発させた。中でも労農党の大山郁夫は、「諸君」と言っただけで、「弁士中止」を命じられた。

「思想善導」。学生・生徒を社会主義や共産主義に近づけない、もしくはそれから転向させること。一〇月、文部省に学生課が設置され、思想善導は政府の教育行政の根幹となった。

▲2月4日、東京・日本橋の白木屋の豆まきに力士の出羽ケ嶽が登場。身長203センチ、体重196キロの巨体で人気者だった。

CM100年 俳優、ルドルフ・ヴァレンチノ

雑誌CM「丹頂ポマード」(金鶴香水、現・マンダム)

▲ヴァレンチノの死から2年たったが、彼の人気は衰えなかった。

子ども イモようかんからメンコまで 当世駄菓子屋事情

この頃、駄菓子屋の商品は六厘で仕入れて一銭売りが原則だった。おもな商品には次のようなものがあった。菓子類ではイモようかん、ねじりん棒、とんかち、ソースせんべい、鬼かりんと、のしいか、鉄砲玉(アメ玉)、金花糖など。

おもちゃではメンコ、ベーゴマ、石けり、おはじき、着せ替え人形、小型ブロマイド。メンコには丸メンコと、シオリ型厚紙製のシオリメンコがあって、いずれも武者絵が印刷されていた。アテモノと呼ばれたクジ類は金花糖が中心で、一等は長さ二〇センチくらいの鯛の形や城の形の金花糖。ほかに〝一本ムキ〟という、当たると一銭が数倍にふえ、はずれると五厘分の菓子がもらえるものもあった。

(加藤秀俊ほか著『明治・大正・昭和世相史』)

◀八木原捷一画「ブルジョアの散歩」。不況で首吊り、一家心中が続く中、ブルジョアのリッチな生活を皮肉ったもの。「東京パック」七月号収録。

流行 美顔術に六億円 アメリカ女性の執念

(ワシントン発) 米労働省が、女性の年間の美容投資額が一八億円に達すると発表した。これは、ベルギーやポーランドなど一〇カ国が、アメリカから借りた戦時債務の合計よりはるかに多い。一八億円のうちの三分の一は美顔術に投資され、次が爪磨き、頭髪の手入れ。この結果、近年、コスメチックの経営者や美容術師の中に巨富を得るものが続出している。

(「京都日出新聞」一月二一日)

▶「すべての家庭で」のマークが登録商標の、即席ハウスカレーが一〇月に発売。

三面記事 若い女性にイレズミ流行

(大阪発) 大阪・港区界隈で、若い女性の間にイレズミが流行している。築港署がこのほど、ある事件の関係者として、M(二五)という美貌の女性を引致したが、彼女は全身に大輪の緋牡丹、右腕に下り竜、上り竜、左腕に「われ一代ご意見無用命まで」と、肌の色さえ見えないくらい毒々しいイレズミをしていて署員を驚かせた。さらにカフェーの女給たちの中には、半月形の糸筋眉をイレズミしているものもいるし、通勤の事務員で耳たぶにハートの形を入れ、会社に出勤する際は耳隠し(耳が隠れる髪型)を結って、何食わぬ顔のものもいる。甚しきは某私立高女の生徒たちで、好きな映画女優の名前や、自分たちの作る結社への愛を腕に彫ったものもある。

流行のもとは港付近を縄張りとする不良青年のうちに、イレズミの心得のあるのが……いて、若い女を誘ったのが広がったという

(「東京朝日新聞」五月二二日)

▲上野の松坂屋では、6月9日から土・日は9時まで営業し、夜間2円以上の買い物客にホタルをサービス。

怪奇 自殺者二五四人 東北線の魔の踏切

(茨城発) 東北線の古河駅と栗橋駅の間に、汽車に飛びこんで自殺したものがこれまで二五四人という、全国でもとびきりの魔の踏切がある。茨城県勝鹿村大堤(現・総和町)の踏切がそれで、明治三三年八月、一七歳の娘が汽車自殺したのを皮切りに、その年だけで六人の青年男女が汽車に飛びこんで死んだ。警察、役場、鉄道当局が協力して自殺防止につとめたが、「それなら」と、村の有志によって高さ三丈(約九メートル)、幅三尺(約九〇センチ)の供養塔が建てられた。しかしその後も自殺者は後を絶たず、現・古河駅長の大久保三之助氏は着任早々、対策を講じるために現場を視察したその日の前で、若い女性がフラフラと汽車に吸いこまれ、胴体がまっ二つになるところを目撃したほど。

こうしてこれまでの自殺者が二五四人、一年に九人という大変な数である。古河町の長沼町長は、昔、巡査として遺体の処理などにあたった人だが、「あそこには死神がついているとしか思えない」と嘆いている。

(「読売新聞」一月一日)

風俗 御大礼奉祝花魁道中 名古屋で初の試み

名古屋・中村遊廓で御大礼奉祝記念花魁道中が催された。花魁道中は今では京都・島原遊廓にその名残を残しているのみで、名古屋ではまったく初めて。大夫は廓内から選ばれた五人の娼妓で、露払い、新造、禿などは芸者衆や幇間がつとめたが、花魁道中独特の外八文字の歩き方など廓内に知るものがないので、京都から師匠を招いて稽古を重ねたもの。同廓では、これを機に花魁道中を名物にしたいという。

(「新愛知」一一月二一日)

▲東京・芝公園でのメーデーに1万5000人が参加。東京市電・市バスの女性車掌(写真)も隊列を組んだ。

▲石出一賀が「東京高等箏学校」の名で、琴の学校を開いた。畳敷きの教室には黒板も据えつけられた。

この年の初もの 空中ケーブルカー 京都・比叡山で営業開始

●**鉄カブト** 山東(中国)出兵の第三師団が実戦で初めて使用

●**落下傘** 九月四日、海軍が茨城県霞ケ浦で初の降下実験に成功 落下傘は藤倉工業製

●**国産グランドピアノ** 一〇月、河合楽器が製造

●**電気カミソリ** アメリカのJ・シックが製造

●**クオーツ時計** アメリカの発明家J・W・ホートンとW・A・マリソンが共同で開発

はやり歌

波浮の港

作詞 野口雨情　作曲 中山晋平

磯の鵜の鳥ゃ　日暮れにゃかえる
波浮の港にゃ　夕やけ小やけ
あすの日和は
やれほんにさ　なぎるやら

船もせかれりゃ　出船の支度
島の娘たちゃ　御神火ぐらし
なじょな心で
やれほんにさ　いるのやら

島で暮らすにゃ　とぼしゅうてならぬ
伊豆の伊東とは　郵便だより
下田港とは
やれほんにさ　風だより

風は潮風　御神火颪
島の娘たちゃ　出船の時にゃ
船のとも綱
やれほんにさ　泣いて解く

磯の鵜の鳥ゃ　沖から磯へ
泣いて送らりゃ　出船もにぶる
明日も日和で
やれほんにさ　なぎるやら

▶日本ビクター蓄音器がレコード会社として創立され、初めて発売したレコードのうちの一枚。佐藤千夜子の歌でヒットし、「流行歌第一号」とされている。

君恋し

作詞 時雨音羽　作曲 佐々紅華

宵闇せまれば　悩みは涯なし
みだるる心に　うつるは誰が影
君恋し　唇あせねど
涙はあふれて　今宵も更けゆく

唄声すぎゆき　足音ひびけど
いずこにたずねん　心の面影
君恋し　思いはみだれて
苦しき幾夜を　誰がため忍ばん

去りゆくあの影　消えゆくあの影
誰がためささえん　つかれし心よ
君恋し　灯し火うすれて
臙脂の紅帯　ゆるむも淋しや

◀ビクターレコードが初めからレコードとして流通させる目的を持って作り、人気歌手・二村定一が歌った。昭和三六年、フランク永井でリバイバル・ヒット。

世界の動き

世界初のトーキーアニメに観客は熱狂！上映時間一〇分たらずの「蒸気船ウィリー」で「ミッキーマウス」がデビュー！

一九二八年、ウォルト・ディズニーが生み出した、ユーモラスなネズミが全米を沸かせた。そのミッキーマウスが登場する初のトーキーアニメ「蒸気船ウィリー」は、爆発的大ヒットとなった。その後もドナルドダックやグーフィーなど、ディズニーが繰り出すキャラクターは、ことごとく全世界のトップアイドルとなったのである。

「ニューヨーク・タイムズ」も絶賛したミッキーマウス

ファーストシーンで、ミッキーマウスが口笛を吹きながら蒸気船の舵を握っていた。それだけで、観客の目はスクリーンにクギ付けとなり、このユーモラスでチャーミングな小さなネズミの一挙手一投足に拍手喝采をあびせた。

◀スタジオでのウォルト・ディズニーと壁に映ったミッキーの影。初期のミッキーマウスの声は、ウォルトが出演した。

©Disney Enterprises,Inc.（左ページ3点とも）

▲「蒸気船ウィリー」(1928年)より。ミッキーマウスのデビュー作となった劇場公開映画。現在はホームビデオでも楽しめる。 ARCHIVE PHOTOS

▲左端は「プレーン・クレイジー」(1928年)に登場した最初のミッキー。右へ向かって、スタイルがだんだん新しくなっていく。当初ミッキーは半ズボンだけで、素足に素手だったが、「蒸気船ウィリー」では靴を履き、1929年からはトレードマークの白い手袋をつけるようになった。以後、演じる役によってさまざまな衣装を身につけ変身する。顔の大きさや目の表情も、年代によって変化していく。右端は、1940年代後半のミッキー。

一九二八年一一月一八日、アメリカのニューヨーク・コロニー劇場（現・ブロードウェイ劇場）で封切られた、一〇分にも満たない世界初のトーキーアニメ「蒸気船ウィリー」は、予想外の大人気となった。

蒸気船の甲板で、ミッキーが初めて出合った女の子のネズミ、ミニーマウスの心をとらえようと、船内の道具を楽器代わりに、牛やオウムたちとコミカルなバンド演奏を繰り広げるというもの。観客は、併映のギャング映画そっちのけで熱狂し、笑い、興奮し劇場を後にした。

芸能誌「バラエティー」は「音とアクションがぴったり合ったすばらしい出来映え」と報じ、「ウィークリー・フィルム・レビュー」誌や「エグジビターズ・ヘラルド」紙も絶賛した。高級紙「ニューヨーク・タイムズ」までが「この映画は実に楽しく独創的な作品だ」と、賛辞を贈った。たちまち劇場では観客がひしめき合い、製作者のウォルト・ディズニー（二六）は、一躍、映画界の寵児となったのである。

ウォルトにとって、この成功は半面では驚きだったが、当然のことでもあった。五年前に兄のロイとともに設立したディズニー・ブラザーズ・スタジオでは、これまで数十本の短編アニメや、実写とアニメの合成短編映画を製作。実は、ミッキー主演の短編アニメもすでに二本完成していた。当時、まだアニメは、動きのぎこちなさが目立ち、劇映画の"添えもの"の域を出ないと思われていた。しかしウォルトはあきらめなかった。不自然さのない流れるようなアニメを作ってみせるという自信を持っていたのである。

一九二七年、史上初のトーキー映画「ジャズ・シンガー」が公開された。これを見た彼は、トーキーの可能性を確信し、いち早くトーキーアニメの製作に着手した。財政は苦しかったが、ロイが資金調達に駆けまわり、ウォルトは作品細部にまでこだわって製作を進めた。

満を持した作品が「蒸気船ウィリー」だった。この作品を機にディズニーの名は全米に知れわたり、以降、一九三〇年代だけで八七本のミッキー映画が作られる。

まさに、ディズニー兄弟にとってこのアニメ映画は、その後の飛躍を約束する記念碑的作品となったのである。

▶「プレーン・クレイジー」より。ミッキーマウス・シリーズ第一作の映画。ミニーマウスも登場。

▲ミッキーマウスを描いたアブ・アイワークス。ミッキーの姿は、頭と胴体という二つの大きな円から作られている。

夢を形にし続けてきたリアリスト、ディズニー

ミッキーマウス作品は、ウォルト初のアニメではなかった。一九二七年に"うさぎのオズワルド"というキャラクターを発案したのだが、彼はその版権を、制作スタッフもろとも配給会社に奪われてしまう。傷心のウォルトは、さらにパワフルな新しいキャラクターを作ることを決意。そこで頭に浮かんだのが、出身地・カンザスシティの自分のオフィスに出没していたネズミだった。ウォルトの妻の発案で"ミッキー"と名づけたという。

挫折を乗り越えて生まれたミッキーの人気はすさまじかった。全米に作られたミッキーマウス・クラブの会員は、一九三一年までに一〇〇万人を数え、ミッキ

外から見たNIPPON

粛清されたロシアの東洋学者・ネフスキーと日本民俗学

——佐伯 修

「月と不死」平凡社提供

▲帰国後は西夏(タングート)語研究に業績を残す。

「私がまだ学生の頃、支那や日本の韻文を知り得た時、露西亜の韻文の特徴の一つである所の、生を讃美し、太陽を歌えるモチーフがほとんど完全に欠けていることに驚いた。物佗びしげなところ、憂鬱な感傷的なところを具えている月のモチーフは日本及び支那にあっては、極めて普通のものとなっている」(『月と不死』(一二)より)

この年、大阪在住のロシアの東洋学者、ニコライ・ネフスキー(三六)は、柳田国男が創刊した雑誌「民族」に、二回にわたって論文「月と不死」を発表した。この論文は、「若水研究の試み」という副題にもあるとおり、沖縄の宮古群島に残る、不死の霊力を持つ「若水」と月にまつわる伝承から、日本本土では失われた、古代の死と再生の観念を復元しようとする試みである。惜しくも未完に終わったが、ネフスキーの日本語文章力を偲ぶことができる。また、この論文に触発されて、後年、石田英一郎は大著『月と不死』を書いた。

一八九二年、ヴォルガ河畔のヤロスラブリに生まれたネフスキーは、ペテルブルグ大学東洋語学部に学んだ。当時、日本研究がブームであった。一九一五年、日本に留学、後にソ連の日本学の長老となる親友、ニコライ・コンラドと励まし合いながら神道などの研究にいそしみ、中山太郎、折口信夫、柳田国男ら、日本民俗学の大物研究者たちと親交を結ぶ。そして、ロシア革命勃発による送金停止にもめげず、小樽高等商業学校や大阪外国語学校で教鞭をとるかたわら、北海道、東北、沖縄、台湾などで調査、「オシラ様」信仰や、アイヌ、沖縄、台湾の曹族の言語と伝承などについて、言語学的、民俗学的研究を発表、それらは日本の学界にも大きな刺激をもたらした。

そんなネフスキーには、この年、日本人の妻・イソとの間に愛娘のネリが誕生、翌一九二九年、ネフスキーは、ソ連となった祖国に帰る。四年後、妻子の渡航もかない、一家はレニングラードに住み、ネフスキーはソ連科学アカデミー東洋学研究所に迎えられたが……。一九三七年、夫妻は相次いで秘密警察に捕われ、消息を絶つ。スターリンの死後、名誉回復が行われ、一転、彼には「レーニン賞」が贈られる。しかし、もはやネフスキー夫妻は、この世の人ではなかった。従来一九四五年没とされた彼が、実は三七年の逮捕直後に銃殺されたことが判明したのは、ソ連崩壊後である。なお、残されたネリは、コンラドの手で育てられた。

ーマウス時計は二年で二五〇万個を売り切った。一九二九年の大恐慌で倒産同然だった玩具会社や時計会社が、ミッキーのおかげで息を吹き返したのである。ミッキー人気は、アメリカはもとよりヨーロッパ各地にも広がった。

一九三二年、ウォルトは、「ミッキーマウスの創造」に対しアカデミー特別賞を受賞する。アニメ製作者の受賞は初めてのこと。ちなみにミッキーも、トップスターだけが並ぶハリウッド・ブールバードに名を刻まれた、初のマンガ主人公の栄誉に輝いている。一九三七年には世界初の長編アニメ映画「白雪姫」を公開して話題を集めた。二〇〇万枚の原画を使った八三分の傑作は、異例の三週間ロングランを実現。日本でも何度もリバイバル上映された。

また一九五五年にはカリフォルニア州アナハイムに最初のディズニーランドをオープンさせたほか、数々の名作アニメを送り出し、そのファンタジックな世界は子どものみならずおとなをも魅了した。一九六六年のウォルトの死去後も"ディズニー王国"は、エンターテインメント産業の頂点に君臨している。たとえば世界に四つあるディズニーのテーマパークには、年間に八〇〇〇万人弱が殺到するほどだ。

ディズニーに詳しい映画研究家の島倉繁夫氏は、その人柄と功績をこう話す。

「映画技術を先取りしてきたウォルト・ディズニーは、映画史そのものを創り上げてきたとも言える。彼こそ、夢を形にし続けてきたリアリスト。アニメーションという空想の世界を、最新のテクノロジーを投入してテーマパークという形に立体化し、現実の世界にして見せた。今後は、さらにバーチャルな世界へと発展を続けていくでしょう」

ウォルトは九歳で、人物の動きを絵に描いて紙をパラパラとめくる遊びを初めて知ったという。その興奮をどう作品化するかが、彼の生涯を賭けた挑戦であり夢だったのだろう。ウォルトの死を、フランスのある新聞はこう報じた。

「世界中の子どもたちが喪に服している。我々おとなが、子どもたちとこんなにも同じ気持ちになったことは、いまだかつてなかった」

ウォルト・ディズニー(1901〜1966)
アメリカの映画製作者、監督。数々のアニメ・キャラクターを生むとともに、動画と音楽を調和させた「ファンタジア」、記録映画「砂漠は生きている」などを製作。アカデミー賞史上最高の、延べ三二個のオスカーを獲得。

▶ミッキーのキャラクター人形に囲まれたウォルト。アカデミー賞受賞式にも、ミッキー人形が"出席"した。

往きて還らぬ

◀4月22日 大倉喜八郎(90)
明治から大正期の実業家。幕末から日清・日露戦争まで武器商人として巨利を得、大倉財閥を形成。左から二人目。

毎日新聞社

▲8月15日 佐伯祐三(30)
洋画家。大正12年渡仏、ヴラマンク、ユトリロに影響を受け、パリの裏町風景を描いた。「ガス灯と広告」など。

▶9月17日 若山牧水(43)
歌人で、明治四三年歌集『別離』刊行。酒と旅を愛し、「幾山河越えさり行かば寂しさの……」などの歌が有名。

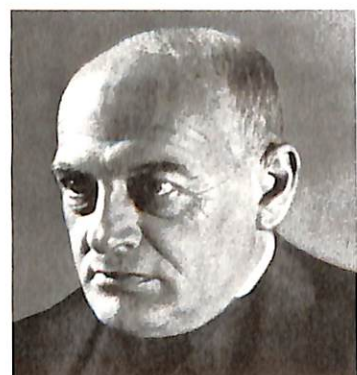
毎日新聞社

▲5月17日 伊勢ノ浜慶太郎(46)
大正期の大関。吊り身を得意とし、引退後は中立親方として大日本相撲協会理事などをつとめたが、猫イラズで自殺。

▲1月11日 トーマス・ハーディ(87)
英の小説家。1872年『緑の木陰』で認められ、1891年『テス』で世界的に知られた。叙事詩劇『覇王』もある。

▲10月15日 広津柳浪(67)
小説家。明治28年『変目伝』『黒蜥蜴』、翌年『今戸心中』を発表、"悲惨小説"と呼ばれた。小説家・広津和郎は次男。

毎日新聞社

▲6月23日 物集高見(80)
明治から大正期の国学者で、大正5年百科全書の『広文庫』出版。国語辞書『日本大辞林』も編纂。物集高量は長男。

▲5月19日 マックス・シェーラー(53)
独の哲学者で、現象学的倫理学を提唱。元ケルン大教授。主著『倫理学における形式主義と実質的価値倫理学』。

▲2月7日 九条武子(40)
歌人。西本願寺宗主の大谷光尊の娘で、男爵・九条良致と結婚。大正9年処女歌集『金鈴』が話題に。高貴な美貌で有名。

▲12月25日 小山内薫(47)
新劇の先駆者で劇作家、演出家。明治42年自由劇場、大正13年築地小劇場を創設、日本演劇界に新風を吹きこんだ。

▲7月23日 葛西善蔵(41)
大正期の小説家。貧困、病気、酒びたりで破滅型私小説作家の典型と言われた。代表作『子をつれて』『哀しき父』など。

▲6月15日 初代梅ケ谷藤太郎(83)
明治期の力士で、明治17年横綱。怪力で知られ、引退後は年寄雷を名乗る。明治42年の両国国技館建設にも貢献。

富山房

▲2月17日 大槻文彦(80)
国語学者。明治24年近代的国語辞典『言海』刊、没後増補され『大言海』となった。ほかに『広日本文典』など。

第69号 6月30日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1929［昭和4年］

●**特集**
“最先端風俗”を歌詞にちりばめて「東京行進曲」二五万枚の大ヒット！／「朝鮮疑獄」「五私鉄疑獄」「売勲事件」次々発覚！ 昭和四年夏は“疑獄の季節”／永田鉄山、岡村寧次、東条英機ら結集“昭和の軍閥”「一夕会」誕生の夜／アメリカの“バブル崩壊”と大恐慌 ウォール街「暗黒の木曜日」の教訓

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…米シカゴでギャング抗争(聖バレンタインの虐殺)(2月14日)／山本宣治、暗殺(3月5日)／「四・一六事件」起こる(4月16日)／エノケンら「カジノ・フォーリー」旗揚げ(7月10日)／「ツェッペリン伯号」飛来(8月19日)／朝鮮・光州で抗日学生運動(11月3日)

●**人物クローズアップ**
“説教強盗”妻木松吉の手口

●**決定的瞬間**
第一回アカデミー賞の授賞式

●**美の出会い**
「国宝の保存法」で“海外流出”にストップ！

●**女たちの肖像**…入江たか子、“傾向映画”に主演／**勝者・敗者**…山田兼松、東京―大阪を八日で走破／**証言・あの日この日**…梶井基次郎、浜口雄幸／**「現場」を歩く**…梅田・阪急のカレー／**20世紀博物館**…船の科学館(東京)／**外から見たNIPPON**…超インフレ下での“日独交流”

●**ベストセラー**…小林多喜二「蟹工船」／**スターと名場面**…大河内傳次郎「沓掛時次郎」／**モノ語り'29**…「クレパス」

ミニ事典

1928年のキーワード

日ソ漁業条約
カムチャツカ沿岸、オホーツク海、ベーリング海を漁場とする北洋漁業について、日本とソ連の間で定められた条約。一月二三日調印。五月二三日発効、昭和二〇年の日ソ開戦で失効。ロシア通の後藤新平がモスクワを訪問、日露戦争後に両国で結ばれたポーツマス条約を、革命政府に承認させることに成功。日本は北洋漁業で捕獲したサケ、マス、カニの缶詰を英米に輸出、多大な外貨を獲得してきた既得権益を確保した。

日本民謡協会
日本民謡の研究・創作を目的とした協会。二月に野口雨情、北原白秋、中山晋平、山田耕筰らが設立。柳田国男による民俗学の確立や、柳宗悦の民芸運動など民衆を見据える視点や、伝統へのこだわりといった思潮の延長上にあり、明治維新以来の西洋化によって失われつつあった民謡の再興につとめた。雑誌「民謡詩人」発刊、一〇月二日には日比谷新音楽堂で第一回民謡祭を開催。

ナップ(全日本無産者芸術連盟)
中野重治、鹿地亘らの日本プロレタリア芸術連盟と蔵原惟人、村山知義、林房雄らの前衛芸術家同盟が合同、三月二五日に結成した組織。ナップとは、全日本無産者芸術連盟のエスペラント語の頭文字。プロレタリア芸術の組織的生産と統一的発表、ブルジョア芸術の克服、弾圧の反対などを綱領として掲げ、機関誌「戦旗」と劇団・左翼劇場を持った。

▶「戦旗」創刊号。蔵原惟人の「プロレタリヤ・レアリズムへの道」を掲載。

毎日新聞社

野田醤油争議
千葉県野田町（現・野田市）の亀甲万醤油醸造元・野田醤油で起きた二一八日間にわたる戦前最長のストライキ。四月二〇日終結。組合側は前年「男工一割、女工二割の増給」など六項目の要求を会社側に提出して拒否されたばかりか、九月には幹部の首切りを通告され、ついにストに突入した。会社側は暴力団による集会の妨害、組合員の殺傷などで対応、一四三〇人全員を解雇したが、結局、三四二人の復職を認めた。

優諚問題
田中義一首相が内閣改造の紛糾の際、その処理に天皇の特別なお言葉、優諚（意向）を利用したとされる事件。田中首相は、鈴木喜三郎内相辞任にともなって久原房之助の入閣を推進、これに反対して辞表を提出した水野錬太郎文相に、辞職を思いとどまるようにという天皇のお言葉をいただいているとして慰留をはかった。五月二三日、水野文相は留任に傾いたが、二日後、あらためて辞職した。

▶優諚問題で紛糾し、五月二五日に結局辞職した水野錬太郎文相。

朝日新聞社

板舟権疑獄
東京市の魚市場移転に際し、板舟権の補償金をめぐる贈収賄により、八月一一日から十数日の間に市会議員一〇人、魚市場関係者五人が召喚・逮捕された事件。板舟権とは魚市場の売場権のこと。同じ月の一五日には京成電鉄の市内乗り入れ申請にからむ贈収賄、京成電鉄疑獄も発覚。東京市会定員八八人のうち二五人が勾留される事態となり、一二月、内務省は市会に解散命令を発した。

▲東京市会の腐敗に社会民衆党は「市政刷新市民大会」を開いた。8月26日、上野公園。

陪審制度
一般民衆を裁判に参加させる制度。一〇月一日、陪審法施行により刑事事件に限り、陪審員が事件の事実関係や犯罪事実の有無について裁判官に答申する、審理陪審が認められることになった。法律の適用や量刑は裁判官が行った。しかし答申に拘束力がなく、有罪の場合、被告は多額の陪審費用を請求されたり、陪審制度を利用すると控訴が許されないなどから、次第に利用件数が減り、昭和一八年に施行停止となった。

アバンギャルド映画
既成の観念や様式を否定し、新しい表現を模索する実験的映画。前衛映画とも。第一次大戦前後からヨーロッパに芽生えたシュールレアリスムや、未来派以降の抽象美術の影響を色濃く反映。一〇月一日、パリで公開されたブニュエル監督の「アンダルシアの犬」（脚本はダリと共作）が代表的。薄雲が月を横切るのを見た男が、女の目を剃刀で切り裂くシーンなど、強烈な印象を残した。

人民の名に於て
不戦条約（正式には「戦争放棄に関する条約」）が八月二七日パリで米・仏・日を含む一五ヵ国によって調印された。ところが日本ではこの条約の「人民の名に於て」の一文をめぐり紛糾。統治の主体を天皇としている明治憲法に反する、というのである。田中義一内閣は窮地に立たされたが、この言葉は日本には適用されないという留保つきで批准された。

EF52形電気機関車
鉄道省が日立製作所など七社に製作を依頼、官民一体となって開発した日本初の国産電気機関車。一〇月一〇日までに七両が完成、東海道線、横須賀線で使用された。鉄道電化は大正一四年に始まり、この年二月、熱海線が熱海まで延長。ところが英米から輸入していた機関車は形式が不ぞろいなうえ、故障が多く、国産化が急務となっていた。

▲日本の工業技術発展のうえでも画期的な成果をもたらしたEF52形。

電送写真
電話線を使って送る写真。新聞の速報性を飛躍的に向上させる新技術となった。先鞭をつけたのは「東京日日新聞」。八月二八日付夕刊紙面で初めて掲載。大阪毎日新聞社が試験を続けてきた仏・ベラン式によるものだった。「東京朝日新聞」も、一〇月二一日付紙面から、独・テレフンケン式電送写真を導入、ベラン式をしのぐ鮮明な画像を送り出した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1928

CONTENTS

●特集
織田が跳び、鶴田が泳ぎ、人見が走った 日本、アムステルダム五輪で初の金！……2
奉天で「満州某重大事件」勃発！ 闇に葬られた張作霖爆殺の真相……6
“開国”以来のスケールで 昭和の「即位大礼」挙行！……27
世界初のトーキーアニメに観客は熱狂 ディズニーの「ミッキーマウス」デビュー……38
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日……10・30
女たちの肖像
藤原あきの「恋」と「自立」 稲葉真弓……9
勝者・敗者
北島ラグビー、早稲田から初勝利 阿部珠樹……9
証言・あの日この日 山崎行太郎……15・33
「現場」を歩く
浅草、六区「活動街」の盛衰 山本徹美……17
20世紀博物館
東京都水道歴史館(東京) 桑原茂夫……26
外から見たNIPPON
ネフスキーと日本民俗学 佐伯修……40
●モノ語り'28
「トーホー自動番号器」「キリンレモン」「パブロン」……19
●人物クローズアップ
高柳健次郎、テレビ実験成功！……20
●決定的瞬間
米国夕刊紙戦争を制した“処刑”写真……22
●美の出会い
草月流の勅使河原蒼風、第一回展！……24
ベストセラー……18 スターと名場面……18
俄楽多市……36 はやり歌……37
往きて還らぬ……41 ミニ事典……42

○編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）・渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーシ
ョンハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
結城順 吉田忠正

○写真協力
影山光洋 影山智洋 河本清子 酒井喜房 但馬憲 辻口文三
服部晶一郎 トーマス・ハワード 平山亮 福田俊
ARCHIVE PHOTOS 朝日新聞社 アメリカンフォト・
ライブラリー イリュストラシオン NHK AP 共同通信
社 国際フォト 本挽社 山陽新聞社 東奥日報社 ニューヨー
ク・デイリー・ニューズ PANA通信社 平凡社 Popper
foto 毎日新聞社 マツダ映画社 山形新聞社 ユニフォト・
プレス WWP
ウォルト・ディズニー・エンタプライズ 松竹 千疋屋本店 松坂屋
大宅壮一文庫 川喜多記念映画財団 交通博物館 草月会 高柳記
念電子科学技術振興財団 たばこと塩の博物館 東京都水道歴史館
日仏会館図書室 日本共産党 日本近代文学館 日本漫画資料館
めがねの博物館

雑誌 23711-7/7 T1123711070564
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社